

第5章 地域・地区別まちづくりの方針

5-1 地域・地区別まちづくり方針の設定

(1) 拠点エリアの設定

- 本市における都市圏域の自立を支え牽引する拠点として、上野原地域拠点エリアを設定しました。
- 上野原地域拠点エリアは、行政、医療、教育、文化、商業等の多様な都市機能を有する、上野原地区中心市街地周辺および上野原駅周辺とします。具体的な位置は下図のとおりとします。
- なお、現在上野原駅周辺については、今後の地域活性化に資する用途地域を指定し、適正な土地利用を図っていきます。

＜上野原地域拠点エリアの設定方針＞

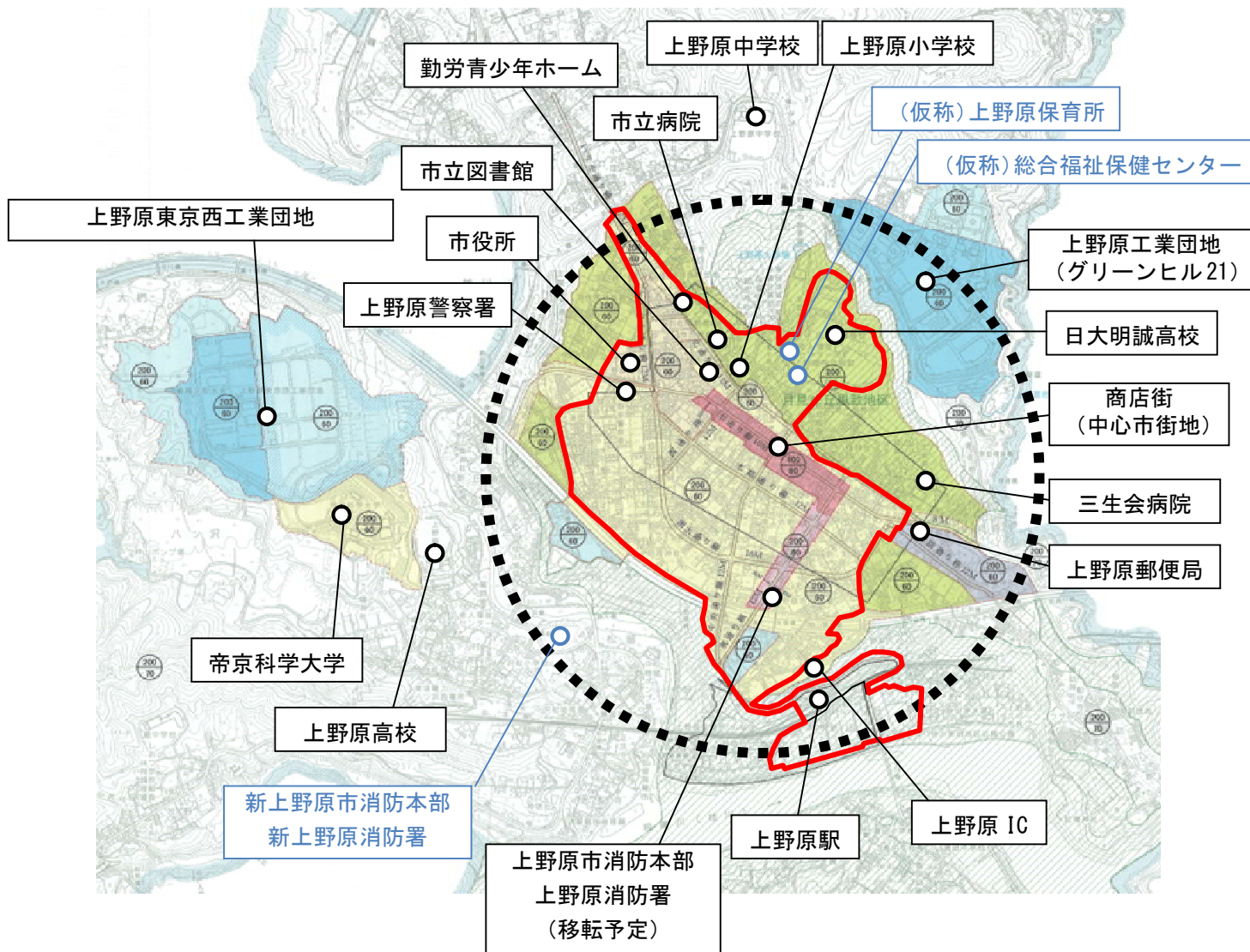
- ・上野原地域拠点エリアの設定にあたっては、山梨県都市計画マスタープランに示された「方針エリア」を踏まえ設定しました。
※方針エリア：本市では中心市街地を中心とした概ね半径1kmの範囲を指定
- ・「方針エリア」を踏まえ、本市の中心市街地（用途地域指定区域）を基本に設定しました。
※住環境を保全する目的で指定された「第一種中高層住居専用地域」は除外
※都市機能の集約化の観点から、新たな土地利用や施設を誘導しない区域を除外
- ・今後、行政機能や医療機能、保健・福祉機能等の集約を図るため、以下の区域を設定しました。
 - ①シビックゾーン
 - ②上野原駅周辺地区





◆ 地域拠点方針エリア（上野原地区中心市街地周辺）



出典：山梨県都市計画マスタープラン

◆ 上野原地域拠点エリア

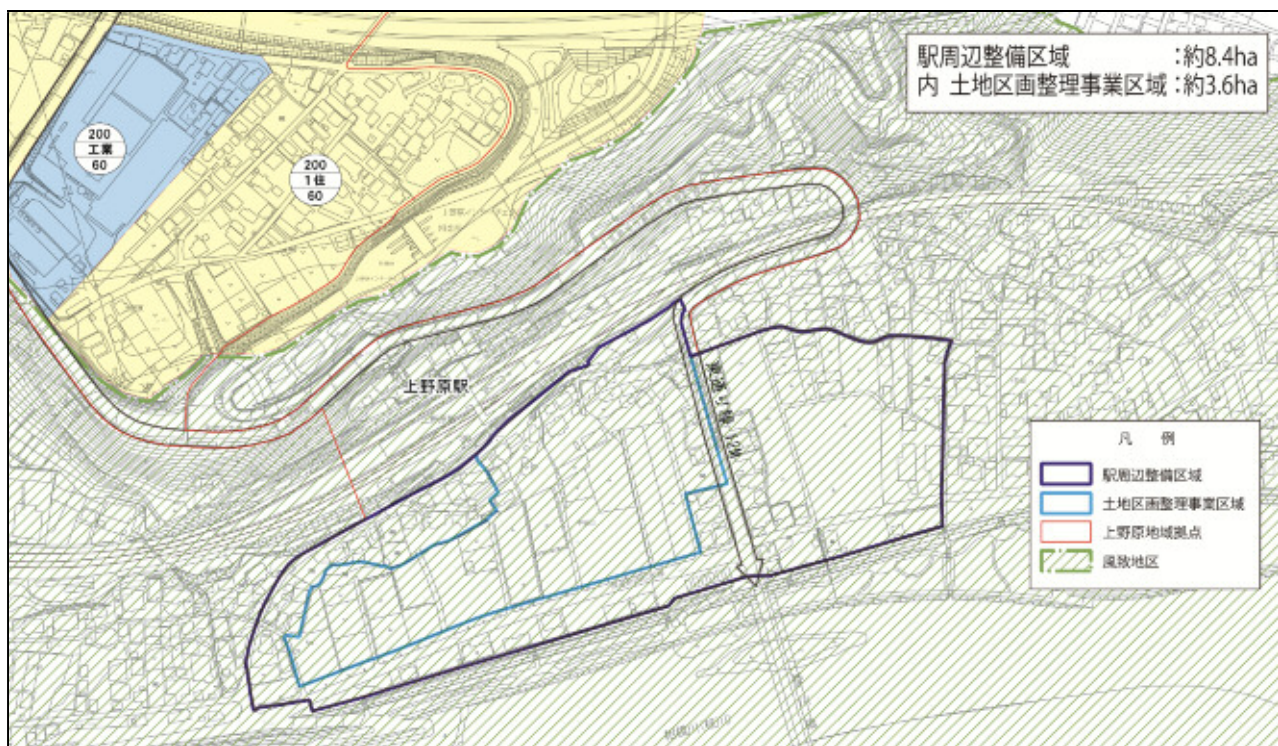


凡 例			
	地域拠点方針エリア		公共公益施設
	地域拠点エリア		公共公益施設(計画)

【参考：シビックゾーン】



【参考：上野原駅周辺整備区域】



(2)地域・地区の区分および地区拠点の設定

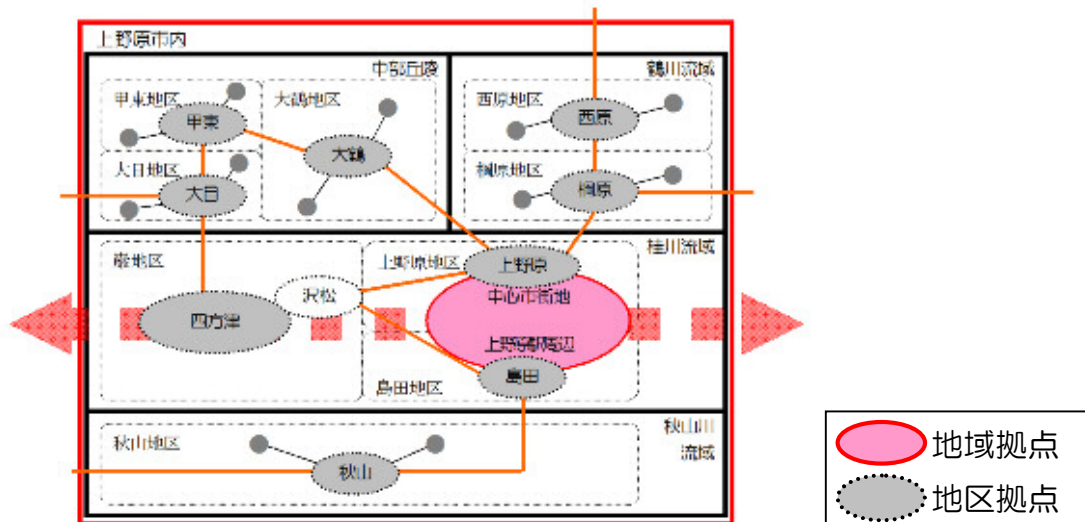
- 全体構想で示した本市の将来都市構造を踏まえ、次のとおり地域・地区の区分を設定しました。
- 地域・地区の区分は、鉄道や道路河川などによる土地利用や地形構造の形態、町村合併等の経緯や日常生活の生活圏のまとまりを考慮して、以下に示す4地域・9地区を設定しました。
- 地域・地区別のまちづくり方針は、地域・地区の特性を考慮して、都市計画区域および中心市街地を有する桂川流域地域は地区別とし、中部丘陵地域、鶴川流域地域および秋山川流域地域は地域別としました。
- 最小単位である地区には、地域の生活を支える「地区拠点」を設定し、医療、雇用および教育などの機能を整備していきます。また、上野原地域拠点エリアから発信される情報受信拠点、および地域ごとの特徴を活かした産業を促進する地区拠点として位置づけます（農業・工業・観光・サービス：6次産業化）。
- なお、巖地区の地区拠点となる四方津駅周辺では、既に住宅地が形成されていることから、生活者に対する更なるサービス向上を図る拠点形成を検討します。

◆ 本計画における地域・地区の区分

地域・地区区分	
地域	桂川流域 中部丘陵 鶴川流域 秋山川流域
地区	巖 島田 ◎上野原 大目 甲東 大鶴 桐原 西原 秋山



◆ 各地区内に設定する地区拠点



5-2 地域拠点エリアのまちづくりの方針

(1)コンパクトなまちづくりによる中心市街地の再生

○アクセスしやすい「まち」の実現

上野原駅周辺整備や都市計画道路の整備促進により上野原駅から容易にアクセスできる活動しやすい「まち」を形成します。また、平成29年3月に供用開始が予定されている（仮称）談合坂スマートインターチェンジからのアクセス向上も図ります。

○安全と安心が確保された住みよい「まち」の実現

都市計画道路の見直し・整備促進、道路の拡幅・歩道の整備などにより、地域の方々が歩いて暮らせる「まち」を形成します。

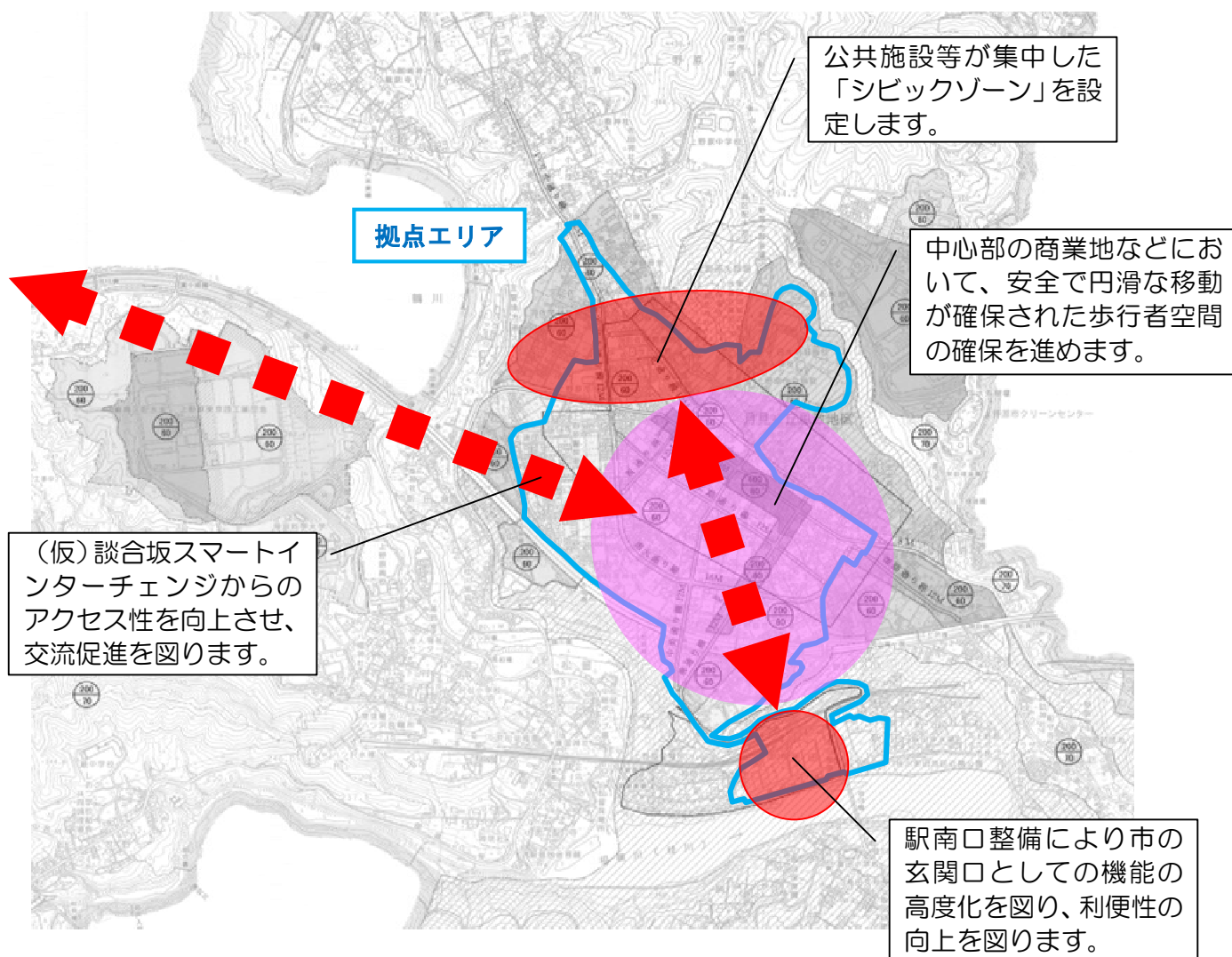
○賑わいのある「まち」の実現

シビックゾーンへの公共施設の再配置・集約化を図るとともに、事務所、商業等が集積した人々がいきいきとして賑わいのある「まち」を形成します。

○地域の個性を活かした「まち」の実現

旧甲州街道の歴史など、上野原らしい個性ある「まち」を形成します。

◆ 地域拠点エリアにおけるまちづくりの方針（イメージ）



(2) 中心市街地の整備と活性化

○本市においては、土地の合理的活用、都市空間の管理運営、地域固有の価値創出、地域経済循環構築、市民・民間の参加の5つの取り組みにより、まちなか居住、公益施設、交通アクセス、市街地の整備などの要素が充実した中心市街地の活性化を図ります。

【活性化された中心市街地へ向けての5つの取り組み】

土地の合理的活用

- 身の丈に応じた再開発や、土地の暫定利用、定期借地権の活用など、やる気のある人が土地を有効に活用できる工夫が必要です。
- 上野原駅周辺整備やシビックゾーン整備において、土地を有効に活用するとともに、当該地区が風致地区にあたることから、市の風致地区条例や景観計画等を制定し、良好な風景の保存に努めます。

都市空間の管理運営

- まちづくりは、事業の実施で終わらずハード、ソフトの両面からマネジメントを継続することが重要です。
- 生活基盤の改善・整備といったハード整備から、風致地区条例の制定といったソフト整備を継続して行い、長期にわたるマネジメントを徹底していきます。

地域固有の価値創出

- 歴史、文化、景観、人材等の発掘と活用により、地域の人たちにとっての住み良さ、価値観を基本としながら、他にはない魅力づくりを目指すことが重要です。
- 上野原中心市街地においては、地域の特産品「酒まんじゅう」や、旧甲州街道の歴史などを継承していくことや、桂川などの良好な自然風景を資源とした観光振興なども図っていきます。

地域経済循環構築

- 地場産業や地域活動との連携などにより、地域のヒト、モノ、カネが循環する持続可能な地域経済を構築することが必要です。
- 上野原中心市街地においては、市内他地域における林業を中心とした「6次産業」振興や、中部丘陵地域で想定する産業振興などと連携しながら産業振興の中心的役割を担います。

市民・民間の参画

- 中心市街地の再生を市民が自分たちの問題として捉え、行政との連携のもと、地域が主体となってまちづくりを進めることが重要です。
- 上野原中心市街地においては、市内他地域と同様に地域の方々が中心となってまちづくりを行う「(仮称)まちづくり協議会」などを立ち上げ、市民の積極的なまちづくりへの参画を図ります。

5-3 地域・地区別まちづくりの方針

(1)上野原地区

1)現状と課題

■地区の現状

○本地区は、本市の東部に位置し、桂川と鶴川の合流部に形成された河岸段丘上に市街地が形成されています。市街地には、市役所、文化ホール（もみじホール）、市立病院などがあり、本市の中心市街地を形成しています。地区北部は向風山へ至る緑濃い森林、丘陵地となっています。

○本地区は全域が都市計画区域に指定されており、中心市街地には用途地域が指定されています。また、用途地域以外の区域には、農業振興地域に指定されています。月見ヶ池周辺は、良好な景観維持のため、風致地区に指定されています。

○本地区の人口・世帯数は、平成22年(国勢調査)で11,266人、4,326世帯となっており、本市の人口の約40%を占め、人口が集中する地域です。しかし、近年は人口の減少や高齢化が進んでいます。

○東西方向の動脈となる中央自動車道、国道20号、(主)大月上野原線、(県)吉野上野原停車場線、南北方向には(主)上野原あきる野線、(主)四日市場上野原線が各地域を結んでいます。

○首都圏に近い立地や中央自動車道上野原インターチェンジへのアクセス性の良い地理的優位性を活かし、首都圏との生産および流通連携が容易な上野原工業団地が形成されています。

○旧甲州街道の上野原宿は、江戸時代から宿場町として栄えた歴史があり、牛倉神社例大祭などの祭り、神輿など伝統ある祭りや行事が開催されています。



■地区の課題

①少子・高齢化、人口減少への対応

- a.市街地や集落の住環境、生活基盤の改善・整備
- b.中心市街地の定住促進
- c.誰もが使いやすい公共交通の機能強化

②生活行動圏の広がりへの対応

- a.地域間を連絡する道路網の確立
- b.上野原駅へのアクセス強化
- c.国道20号・(主)四日市場上野原線の安心・快適な歩行空間の確保

③価値観の多様化への対応

- a.無秩序な宅地化の防止と良好な住宅環境の保全
- b.風致地区条例の制定や景観計画の策定
- c.地域分断や住環境保全、防火等を考慮した都市計画道路の見直し

④中心市街地空洞化への対応

- a.中心市街地の機能強化
- b.国道 20 号の改良による回遊性の向上
- c.都市計画道路網の見直し検討および整備促進
- d.生活道路の改善と交通安全の強化
- e.快適・利便性の高い商店街づくり
- f.空き店舗や空き地などの有効活用
- g.歴史・文化の街並み景観の誘導

⑤循環型社会への対応

- a.良好な森林・緑地資源の維持・保全・活用
- b.八重山ハイキングコースなど登山道・遊歩道の整備

⑥ICTと情報化社会、国際化への対応

- a.工業団地などの既存ストックの活用

⑦安全・安心なまちづくりへの対応

- a.身近な公園・広場の整備
- b.国道 20 号の改良による防災・防火機能の強化

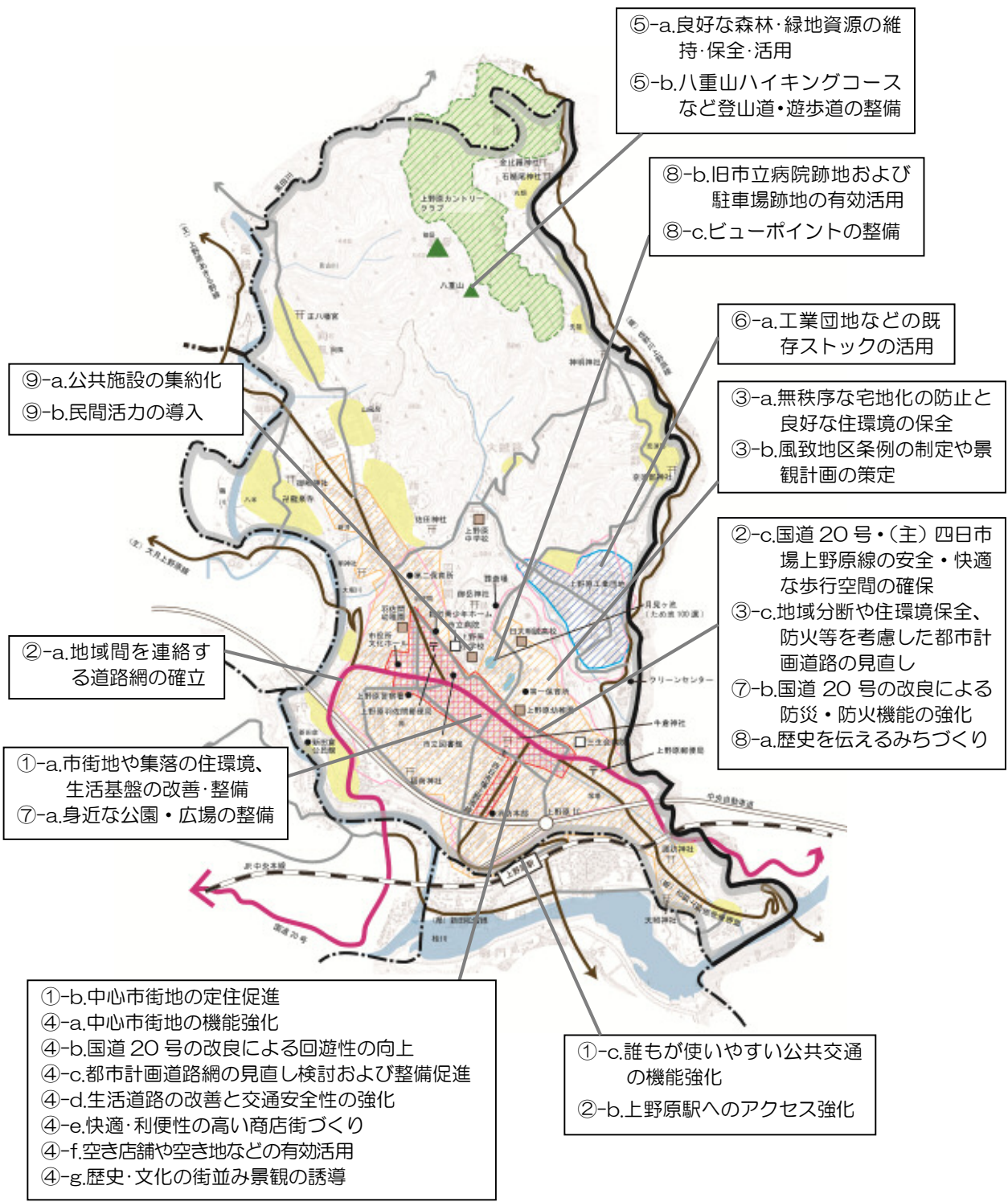
⑧地域資源等を活かしたまちづくりへの対応

- a.歴史を伝えるみちづくり
- b.旧市立病院跡地および駐車場跡地の有効活用
- c.ビューポイントの整備

⑨都市経営コスト最適化への対応

- a.公共施設の集約化
- b.民間活力の導入

◆地区の現状と課題図（上野原地区）



行政界	用途地域	教育施設
地区界	中心市街地	公共施設
鉄道・駅	河川等	郵便局
中央自動車道	既成市街地	神社
国道	集落地	社寺
県道	ゴルフ場	主な山地
主要な生活道路	工業団地	病院

2)将来像

■地区の将来像と目標

市の中核を担い先導的な役割を果たすまち

◆目標

- 市の中核を担う滞留拠点を創出するとともに、各地域との交通ネットワークの強化を目指します。
- 市の文化、情報、地域資源など発信拠点の創出を目指します。
- 産・学・市民が連携し多様な枠組みをつくり、誰もが住みやすい生活環境の創出を目指します。

◆重点プロジェクト

○中心市街地の活性化

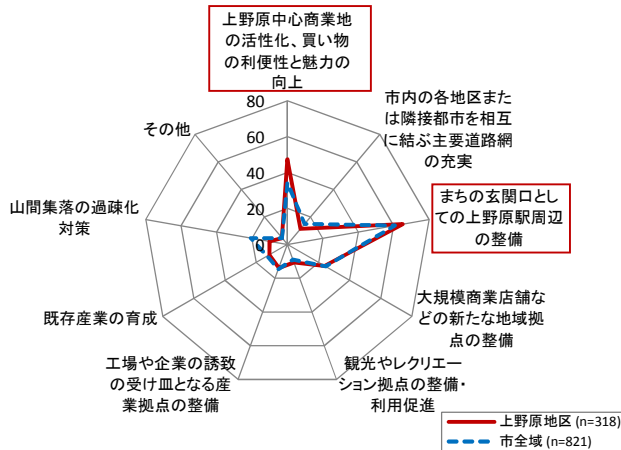
中心市街地は、行政、文化、商業等の中心として発展してきましたが、近年は中心市街地が賑わいや魅力に欠けた状況にあります。誰もが身近で安心して集える商店街づくりを進めていきます。地域の賑わい創出・活力の向上を図り、まちの活力を高めます。

○シビックゾーンの整備

市内の公共施設の再配置・集約化を図るため、シビックゾーンを設定し、市立病院跡地に（仮称）上野原保育所および（仮称）上野原総合福祉保健センターを整備します。

◆地区住民の意向・声

Q. 市のさらなる発展のために具体的にどのような取り組みを優先的に進めるべきとお考えになりますか



【地域住民の声】

- 上野原市のテーマは、「駅とまちとの接合」だと思います。駅や駅周辺の整備はもとより、駅とまちを一体化するべく、交通機関の整備、道路、特に歩道の整備が必要だと思う。
- 上野原中心商業地の活性化は、まず、歩道の幅を広げ、歩きやすく、安全に買い物が出来るようにして頂きたいです。現状では歩道が狭く、老人など歩行に自信のない人は危険を感じています。
- 上野原は買い物をする場所が少なく、都市に向かわないと買えないものが多いです。商店街の空き店舗を利用する等、場所を増やして利便性を高めてほしいと思います。

■土地利用の方針

市の中心地区として魅力ある市街地構造を再編します

本地区は、工業や商業、住宅地、公共スペース、農地など、各々の多彩な表情が調和した計画的な土地利用の誘導を進め、市の中心地区として魅力ある市街地構造を再編していきます。

- 本地区の現行の居住地域は、特に中心市街地周辺の密集地の改善を進め、基盤整備を推進し、良好な一般住宅地として形成してきます。
- 豊かな樹林地や鶴川の水辺を背景とした住宅地については、緑と潤い豊かな地域環境と調和した住宅地を形成します。
- 本地区北部の集落地は、里山の集落環境の維持・保全を図るとともに、農用地の保全、遊休農地の再生・活用を進めていきます。
- シビックゾーンは、市役所を中心に教育施設や公共施設などを集約し、誰もが利用しやすい環境づくりを進めます。また、周辺地区と調和のとれた風致地区の見直しや景観計画等の導入を検討していきます。
- 国道 20 号沿道は、中心市街地として商店街の再編、活性化を推進し、誰もが快適性や利便性を享受できる空間形成を図ります。
- 中心市街地は、住宅と店舗・業務施設などが混在する市街地として、住環境と賑わいが調和した良好な市街地の計画的誘導を進めます。
- 上野原工業団地には、工業や研究開発、流通施設などが集積されており、今後もまちの活性化に寄与するため中心市街地との連携を図ります。
- 市街地の後背に広がる森林は、景観保全の視点から計画的な保全を図るとともに、地域住民や来訪者など、誰もが潤いある自然を楽しめるよう登山道や遊歩道の整備活用を進めていきます。

■まちづくりの方針

1. 中心市街地の機能を強化し、自立して発展するまちの顔を創造します

①道路網の再編などにより、まちの活力を高めるみちづくりを進めていきます。

市の東西方向の大動脈である国道 20 号は、通過交通と域内交通が混在するため、交通が集中し慢性的に交通渋滞が発生しています。そのため、地域の方々が、まちなかを快適に通行することが困難な状況になっています。また、交通渋滞が引き起こす排気ガスや騒音により沿道環境を悪化しています。そのため、国道 20 号の改良など中心市街地の道路網の再編を進めていきます。

- ・都市計画道路網の見直しによる再編や整備促進（市街地の道路体系の見直しと併せ、今後の交通需要、整備効果、実現可能性の視点から、再編・見直し検討および整備促進）
- ・国道 20 号の改良（防災・防火等の道路整備による安全・安心なまちづくり）
- ・中心市街地から上野原駅への移動の円滑化
- ・道路網再編と併せた市街地の交通利便性向上（駐車場、駐輪場の確保 など）

②観光情報や産業情報など上野原地区の魅力を発信します

本地区の魅力を十分に発揮しうる新たな施設整備などを検討し、中心市街地の再生・活性化に向けた活力あるまちづくりを進めていきます。

周辺の観光情報や上野原工業団地に関する情報の発信基地として、空き店舗等の利活用を図

ります。

- ・活性化に寄与する魅力拠点の導入検討（地域振興施設、情報発信基地づくり）
- ・商店街の活性化を目指した空き店舗の活用やサイン整備

③市の中心として必要な機能を集約し、コンパクトなまちづくりを推進します

本市の中心として賑わいあふれるまちを目指し、公共施設や病院、学校など都市機能がコンパクトに集積し、各施設にアクセスしやすいまちづくりを進めていきます。人が集まることにより賑やかな中心市街地を形成します。

- ・行政・文化拠点の育成・強化（（仮称）上野原保育所や（仮称）上野原総合福祉保健センター・コミュニティ防災センターなどの集積と充実）
- ・まちなか居住の促進（空き地や民間住宅を活用した居住促進）

④まちへの愛着を共有できる人づくりと仕組みづくりを進めます

「まちづくりは人づくり」とも言われています。住む人がまちを誇り、訪れる人にその魅力を伝え、その魅力がまた多くの人をひきつける、その連携がまちの活力につながるよう、一体的・継続的な展開に向けた人づくり・仕組みづくりを進める必要があります。

- ・（仮称）まちづくり協議会の組織化
- ・住民自身が地域を考えていく積極的な意識づくり・人づくり
- ・個々のボランティア精神をより発揮できる公的な機会づくり

2. 魅力ある商店街づくりと上野原らしい歴史・文化を活かした美しいまちなみづくりを推進します

①風土の歴史・文化などを活かした美しいまちなみ、景観づくりを進めます

中心市街地は、旧甲州街道の宿場町としての歴史性や織物によって栄えた職人のまちの表情、まちに潤いを与える斜面緑地や豊かな自然環境、地域住民の手により守られている国天然記念物である推定樹齢800年の上野原小学校の大ケヤキなどの大木、社寺林、屋敷林など風土を物語る資源を多数有しています。

これら地域の資源を活かした美しいまちなみづくりを進めます。

- ・歴史・文化のまちなみづくり（既存の蔵・歴史的建造物の活用、上野原宿、牛倉神社、諏訪番所跡 など）
- ・旧甲州街道のみちづくり（緑と景観のシンボル軸の形成、イメージを高めるデザインコンセプトづくり、上野原宿の案内板の整備、舗装・街灯整備、サイン・休憩スポット、まちかど広場の整備 など）
- ・市街地周辺の良い緑地資源の保全（段丘斜面緑地、古木・大木、社寺林、屋敷林、月見ヶ池、月見ヶ池の桜、富士月見ヶ池の桜、桜ヶ丘の桜、上野原小学校の大ケヤキ など）
- ・風致地区条例や景観計画の策定

3. 地域の安全・安心で快適な暮らしを確保するみちづくりを行います

①地域間を結ぶ交通体系の連携強化します

各地域との連携・交流を強化するため、地区内の幹線道路・補助幹線道路の機能強化に努めます。

- ・幹線道路の機能強化（国道 20 号、（主）大月上野原線、（主）四日市場上野原線、（主）上野原あきる野線の改良）
- ・補助幹線道路の機能強化（（県）吉野上野原停車場線、（県）佐野川上野原線の改良）
- ・循環型公共交通体系の確立（公共交通の充実、山間集落地域への交通手段強化）

②交通環境を改善し人にやさしいみちづくりを進めます

地区の幹線道路である国道 20 号は多くの児童が利用する通学路と重複し、十分な安全性が確保できていない状況にあります。このような交通環境を改善し、安全で快適に利用できるみちづくりを進めていきます。

また、防災や十分な幅員を確保による延焼防止など道路整備による安全・安心なまちづくりを進めていきます。

- ・通学路等の交通安全性の確保（交通速度抑制、交通規制、歩道の設置 など）
- ・危険性の高い交差点の改良
- ・道路環境の美化（道路緑化推進、ごみのポイ捨て禁止、違法看板撤去、地域住民による美化活動・維持管理の推進 など）
- ・道路整備による防災対策の推進（緊急輸送路の確保、延焼防止機能の強化 など）

4. 誰もが豊かでのびやかに暮らせる住環境づくりを進めます

①周辺環境と調和した計画的な土地利用を進めます

月見ヶ丘風致地区は、今後の都市化の動向をみすえながら、無秩序な開発を抑制し、市街地の有効利用と望ましい土地利用を図るため、風致地区の見直しや景観計画の策定を進めていきます。

②生活基盤の改善・整備と暮らしやすい環境づくりを進めます

主要な生活道路の改善・整備を緊急性、必要性の高い箇所から段階的に進めます。

- ・緊急性、必要性の高い主要な生活道路の段階的改善・整備（住宅地内の狭あい道路や行き止まり道路、見通しの悪い交差点 など）
- ・交通安全施設の機能充実（道路屈曲部の改善、隅切りの設置、カーブミラー など）

少子化、核家族化が進む中、未来を担う子どもたちを地域ぐるみで育てていくことが一層重要になってきます。そのため、住宅地のオープンスペースや空き地などを有効活用し、身近な公園の整備を進めます。

市街地においては、段階的に公共下水道整備を推進し、中山間集落地では地域に応じた生活排水処理方式（合併浄化槽）を普及させていきます。

ごみの減量化や自家処理の普及など、住民の環境意識の向上を図りながら省エネ・リサイクルのまちづくりを推進します。

近年、局地的な集中豪雨による浸水や法面崩落による道路寸断など災害が各地で多発しています。安全・安心な暮らしのためにも、治山・治水対策によるハード面の対策実施や、ソフト面強化を図り防災・減災対策を進めます。

- 防災拠点の強化（指定避難場所）
- 緊急時の輸送ルート確保（幹線道路の防災性向上、代替えとなる補助幹線道路の充実）
- 地域自主防災体制のソフト面における強化（災害時の連絡体制、消防団の機能強化、救援・救助体制の確立、医療機関との連携効果、防災意識の高揚）
- 集落内の狭あい道路の改善、避難路の確保

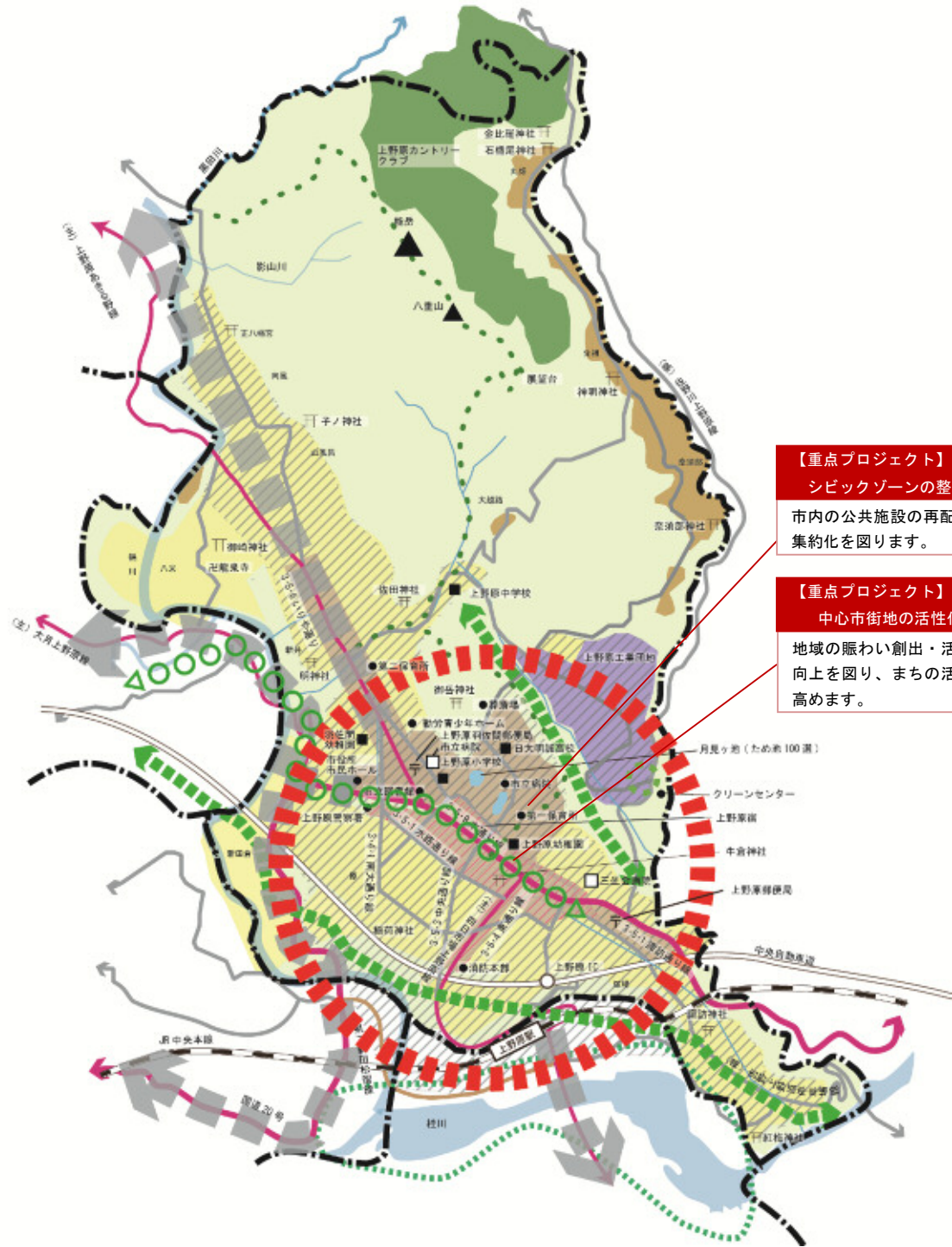
防犯灯などを設置し、防犯対策を強化し地域の安全性強化に努めます。

- 防犯灯の整備、主要箇所への警察官立寄所の設置など防犯施設の設置、防犯活動の啓発と普及

お年寄りや障害のある人をはじめ誰もがいきいきと心豊かに日常生活を送り、社会活動に参加できる地域を目指し、道路等の公共施設のバリアフリー化を推進します。

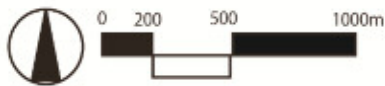
- 高齢者など誰もがいきいきと暮らせるよう、交流やふれあい活動の拠点、仕組みづくり
- 道路等の公共施設のバリアフリー化の推進

◆まちづくり方針図（上野原地区）



【重点プロジェクト】
シビックゾーンの整備
 市内の公共施設の再配置・
 集約化を図ります。

【重点プロジェクト】
中心市街地の活性化
 地域の賑わい創出・活力の
 向上を図り、まちの活力を
 高めます。



<ul style="list-style-type: none"> 行政界 地区界 	<道路・交通> <ul style="list-style-type: none"> 中央自動車道 幹線道路 補助幹線道路 旧甲州街道 地域間連絡道路 	<土地利用> <ul style="list-style-type: none"> 住宅地 集落地 中心市街地 工業団地 シビックゾーン 森林 ゴルフ場・レクリエーション施設等 	<ul style="list-style-type: none"> 地域拠点 	<その他> <ul style="list-style-type: none"> 斜面緑地の保全 水辺空間の保全と治水安全性の向上（河川） 公共下水道全体区域 登山道・ハイキングコース 	<ul style="list-style-type: none"> 教育施設 公共施設 郵便局 神社 社寺 山地 病院
--	---	--	--	---	---

(2) 巖地区

1) 現状と課題

■ 地区の現状

- 本地区は、本市の南西部に位置し、桂川から北部は河岸段丘に開けた住宅地、南部は高柄山などへ至る緑濃い森林・山岳地の河岸沿いに点在する集落となっています。
- 本地区の北側一帯が都市計画区域に指定されており、上野原東京西工業団地およびコモアしおつに用途地域が指定されています。また、用途地域以外の区域には、農業振興地域に指定されています。
- 本地区の人口・世帯数は、平成 22 年（国勢調査）で 6,476 人、2,514 世帯となっており、総人口に占める割合は上野原地区に次いで約 25%と高く、人口の減少も少ない地域です。高齢化率は 18%と市の平均 26%と比較して低い地域です。
- 地区北東側は、上野原東京西工業団地や帝京科学大学・県立上野原高校などの教育施設が立地しています。西側は、民間開発による大規模住宅団地（コモアしおつ）が形成され、首都圏のベッドタウンとなっています。
- 東西の動脈である国道 20 号が本地区と中心市街地や隣接する大月市を結び、南北では（県）野田尻四方津停車場線が、旧甲州街道に沿った（主）大月上野原線に接続しています。
- 四方津駅の利用者数は、近年横ばいであるものの、東京の通勤圏内に位置することや、大規模住宅団地に住む方々の利用などにより、年間約 70 万人の利用者数にのぼります。
- 地区内は、ハイキングコースや桂川・鶴川などの豊かな自然やレクリエーション資源を有しています。



■ 地区の課題

① 少子・高齢化、人口減少への対応

- 四方津駅のバリアフリー化
- 良好な地域環境と調和する計画的な土地利用
- 四方津駅周辺や集落地の生活基盤の改善・整備による住環境の向上
- 誰もが使いやすい公共交通の機能強化

② 生活行動圏の広がりへの対応

- 地域間を連絡する道路網の確立（集落通過区間等の狭あい区間の解消、安全・快適な交通環境の強化）
- 幹線道路・補助幹線道路の改良・整備促進
- アクセス路線の検討（地域のアクセス性向上、災害時の代替ルートの確保）

③ 価値観の多様化への対応

- 景観計画の策定

④循環型社会への対応

- a.良好な緑地資源の維持・保全

⑤ICT・情報化社会、国際化への対応

- a.四方津駅前やコモアしおつの商業施設を利用した情報提供
- b.産・学・官の連携による地域振興

⑥安全・安心なまちづくりへの対応

- a.四方津駅周辺および国道20号沿道の改善・機能強化
- b.防災性の向上（消防活動困難区域解消等）
- c.市消防本部の新庁舎建設

⑦地域資源等を活かしたまちづくりへの対応

- a.廃校跡地の有効活用（旧沢松小）
- b.レクリエーション資源の有効活用

⑧都市経営コスト最適化への対応

- a.公共施設等の集約化
- b.民間活力の導入

◆地区の現状と課題図（巖地区）

- ①-b.良好な地域環境と調和する計画的な土地利用
- ②-a.地域間を連絡する道路網の確立
- ②-b.幹線道路・補助幹線道路の改良・整備促進
- ③-a.景観計画の策定
- ⑤-b.産・学・官連携による地域振興
- ⑧-a.公共施設等の集約化

②-c.アクセス路線の検討

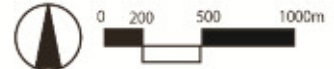


⑥-c.市消防本部の新庁舎建設
⑦-a.廃校跡地の有効活用

④-a.良好な緑地資源の維持・保全
⑥-b.防災性の向上
⑦-b.レクリエーション資源の有効活用

①-a.四方津駅のバリアフリー化
①-c.四方津駅周辺や集落地の生活基盤の改善・整備による住環境の向上
①-d.誰もが使いやすい公共交通の機能強化
⑤-a.四方津駅前やコモアしおつの商業施設を利用した情報提供
⑥-a.四方津駅周辺および国道20号沿道の改善・機能強化

— 行政界	□ 用途地域	■ 教育施設
— 地区界	— 河川等	● 公共施設
— 鉄道・駅	■ 集落地	● 公園
— 中央自動車道	■ 工業団地	〒 郵便局
— 国道	■ ゴルフ場	⌘ 神社
— 県道		⌘ 社寺
— 主要な生活道路		⌘ 発電所
		▲ 山地
		— 主な橋梁



2)将来像

■地区の将来像と目標

市西部の中核として快適で住みよいまち

◆目標

- コミュニティを強化し連携あるまちを目指します。
- 産・学・官の連携による地域資源を活用した先進的なまちを目指します。
- 駅や各地域を結ぶ道路ネットワーク機能を強化し、安全・安心な交通環境づくりを目指します。

◆重点プロジェクト

○コミュニティの活性化による地域振興

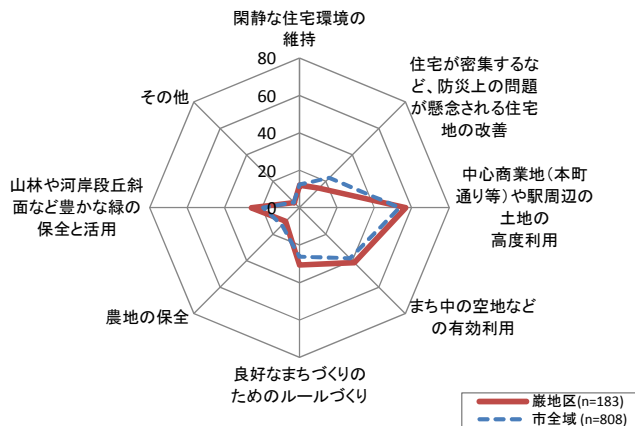
本地区は、大規模住宅団地（コモアしおつ）や高校・大学の立地などにより、人が多く集まる地域です。そうした特性を活かしたまちづくりを展開していくためにも、来訪者や市民が交流する場を設け、積極的に参加を促すことが重要です。そのため、既存施設を活用した交流の場や新たな活動拠点づくりを支援します。

○地域資源を活かした快適で住よいまちづくり

本地区は桂川が東西に流れ、南側には豊かな森林地域が広がる自然豊かな地区です。自然環境に恵まれた地形を活かし、滞在・体験型のレクリエーション資源の整備・活用、登山道、ハイキングコースの整備を行い、まちの産業活力となる資源を活かした魅力あるまちづくりを進めていきます。

◆地区住民の意向・声

Q. 土地利用（土地の使い方）について、具体的にどのような点を優先的に進めるべきとお考えになりますか。



【地域住民の声】

- 四方津駅は今のレトロな駅舎を活かした駅前開発ができればいいと感じます。ただ、高齢者には利用しにくい駅でもあり、バリアフリー化を希望します。
- 駅近の保育所は働くお母さんのための利便施設であるのと同時に、近隣の老人たちも子育ての手伝いができるなど、コミュニティの場となるのが良いのではないかと思います。
- 閉校した学校を利用したデイサービスを作り、上野原の住人に先生になってもらいリハビリや料理を行ったり、喫茶スペースでは無料でお茶を出して、利用者さんの話し相手になったり、ジムなどを入れて若者を呼び込んだりして活性化してはどうでしょうか。

■土地利用の方針

落ち着いた住環境の維持・向上と良好な自然環境に調和した計画的な土地利用を進めます

本地区は、桂川や鶴川、国道 20 号周辺に住宅地や集落地が集積し、その背後に森林・山岳地が広がる明瞭な地域構造をもっています。今後は、四方津駅周辺の整備を想定しつつ、落ち着いた住環境の維持・向上と良好な自然環境に調和した計画的な土地利用を進めていきます。

- コモアしおつでは、良好な住環境を維持するために策定した地区計画や建築協定の適正な運用を図ります。また、集落地は緑豊かな地域環境と調和し、一定のルールに基づいた計画的な土地利用を進めていきます
- 地区南部の集落地は、里山の集落環境の維持・保全を図るとともに、農用地の保全、遊休農地の再生・活用を進めていきます。
- 四方津駅周辺は公共施設が集積するため、市西部の中核となる地区拠点づくりを進めていきます。
- 上野原東京西工業団地は、工業や研究開発、流通施設などの集積・促進を図るとともに、周辺地区と一体となった活性化を図るための土地利用を進めていきます。
- 住宅地や集落地の背後に広がる森林は、保水（水源かん養）、景観保全の視点から計画的に保全を図るとともに、誰もが潤いある自然を楽しめるよう登山道などの自然レクリエーション活用を進めていきます。

■まちづくりの方針

1. 自然環境や地域資源を活かした人を呼び込むまちづくりを進めます

①豊かな自然環境の維持・保全を図ります

本地区を東西に流れる桂川は、豊かな自然環境を象徴する貴重な資源です。また、周囲の森林は、林業生産基盤のみならず、自然生態系や風土の保全、保水（水源かん養）等の機能も併せ持っています。これら骨格的な環境要素・景観要素ともなる河川や水面、森林を維持・保全し、水と緑の豊かさが実感できる美しい風土の原点として、次世代に引き継いでいきます。

- ・水辺空間の維持・保全（生態系、水質等の維持・保全、治水対策の強化）
- ・森林地区の維持・保全・活用（保安林をはじめ保水（水源かん養）、景観上重要な森林地域（森林粗放化の防止と資源維持））
- ・段丘斜面緑地の保全（コモアしおつなど市街地周辺の良い緑地・景観資源の保全）
- ・生態系の維持・保全と中山間地域での農業の維持、鳥獣害への対応（生息調査、防除対策の検討）

②交流活性化へ向けた自然や地域資源を有効に活用します

四方津駅を利用し訪れる人々や地域住民など、誰もが豊かな自然環境に親しみ、また、まちの産業活力の源泉となる資源を活かし、新たな交流や地域コミュニティの醸成につながる、魅力あるまちづくりを進めていきます。

- ・滞在・体験型のレクリエーション資源活用（自然観察路の整備、グリーンツーリズム、ハツ沢発電所の桜、カタクリの花の群生地 など）
- ・登山道、ハイキングコースの整備（案内・サイン整備、スポット的なたまり空間、トイレの整備、マップづくり など）
- ・周辺環境と調和した産学共同交流ゾーンの整備検討（上野原東京西工業団地の未利用区

間の立地促進、新製品・新技術の開発・展示、情報発信、雇用の活性化 など）
・産・学・官連携による地域振興（大学、工業団地内の企業等による連携）

2. 四方津駅周辺の環境整備の推進とともに地区コミュニティの向上を図ります

①四方津駅周辺の環境整備を推進します

四方津駅は、主に通勤・通学の利用者が多いものの、集落地から駅までのアクセス道路や駅前広場が狭小であるといった状況にあります。また、近年登山客も多数訪れるなど旧甲州街道の史跡散策と連携させた周辺整備も求められています。そのため、四方津駅を基点とした環境整備を進めていきます。

・四方津駅周辺の機能強化とバリアフリー化の促進（駅前広場整備 など）

②地域の一体感を高めるコミュニティづくり支援します

来訪者や市民が交流する場を設け積極的に参加を促すために、既存施設を活用した交流の場や新たな活動拠点づくりを支援します。

・コミュニティづくりに向けた既存施設の有効活用（廃校跡地や学校開放を活用した多目的利用の場の創造、児童館の設置、利便性の高い集会施設の整備推進検討）
・地域資源を活かしたコミュニティの醸成（祭り・行事の保全と育成、まち全体のイベント開催など）
・協働のまちづくりを発信する活動拠点づくり（地域情報の収集、インターネットでの情報提供、情報・案内マップづくり、人材活用と育成、地域ボランティアやNPOの立ち上げ など）

3. 地域を結ぶ環状ネットワーク道路を強化し、安全・安心な交通環境づくりを進めます

①環状ネットワーク道路の機能を強化します

地区内の急峻な地形に立地する集落などでは、災害時において道路寸断に伴う各集落の孤立化が懸念されています。したがって、各地域との連携・交流を強化するため、地区内の幹線道路・補助幹線道路の機能強化に努めます。

・地域間を連絡する道路の改善・機能強化の推進（国道20号、（県）野田尻四方津停車場線、狭あい区間の解消）
・アクセス路線の検討（地域のアクセス性向上、災害時の代替ルートの確保（コモアしおつ・中部丘陵地域方面））

②地域を結ぶ道路網を確立します

各地区との連携・交流を強化するため、地区内の主要幹線・幹線道路の機能強化に努めます。特に、国道20号は規制雨量を超えた降雨の際に通行止めとなる場合があるため、幹線道路としての十分な機能確保について、整備促進を図ります。

・国道20号の改良整備と機能強化
・地域間を連絡する補助幹線道路の強化（（県）野田尻四方津停車場線の改良・整備（狭あい区間の解消 など）
・橋梁の改築（各集落を結ぶ老朽化した橋梁の改築検討）
・循環型公共交通体系の確立（公共交通の充実、山間集落地域への交通手段強化）

③交通環境を改善し人にやさしいみちづくりを進めます

地区の幹線道路や補助幹線道路は多くの児童が利用する通学路と重複し、十分な安全性が確保できていない状況にあります。このような交通環境を改善し、安全で快適に利用できるみちづくりを進めていきます。

- ・通学路等の安全性の確保（国道20号の歩道整備 など）
- ・道路環境の美化（道路緑化推進、ごみのポイ捨て禁止、違法看板撤去、地域住民による美化活動・維持管理の推進 など）

4. 基盤整備の整った住みよいまちづくりを推進します

①住宅地や集落地に対して良好な緑地資源の保全を進めていきます

八ツ沢区・松留区や四方津駅周辺は、今後の住宅・宅地の需要動向を把握しながら、無秩序な開発、宅地化を抑制し、望ましい住空間の形成を図るため、都市基盤形成と一体的に計画的な土地利用を進めていきます。

また、コモアしおつ外周や上野原東京西工業団地周辺などの良好な緑地は、景観計画の策定等による保全を検討していきます。

②地域で暮らすために必要な生活機能を確保し、安心した暮らしを提供します

既存施設の有効活用により、生活に必要な機能を確保し、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、暮らしやすさの向上を図ります。また、安心して生活できる住環境の確保に向け、災害時に消防自動車の侵入ができない消防活動困難地域の解消などまちの防災性の向上に努めます。

- ・コミュニティづくりに向けた既存施設の有効活用（廃校跡地や学校開放を活用した多目的利用の場、児童館の設置、利便性の高い集会施設の整備推進検討）
- ・消防活動困難区域の解消などによるまちの防災性の向上
- ・市消防本部・消防署を中心とした防災機能の集約・強化

③誰もが住みやすい住環境づくりを推進します

身近な生活道路の整備を進めます。

- ・補助幹線道路の改良・整備（狭あい道路や見通しの悪い交差点 など）
- ・交通安全施設の機能充実（道路屈曲部の改善、隅切りの設置、カーブミラー、街路灯の設置など）

少子化、核家族化が進む中、未来を担う子どもたちを地域ぐるみで育てていくことが一層重要になってきます。そのため、住宅地のオープンスペースや空き地などのオープンスペースを有効活用し、身近な公園や小広場の整備を進めます。

住宅地においては、公共下水道整備を推進し、集落地では地域に応じた生活排水処理方式（合併浄化槽）を普及させていきます。

ごみの減量化や自家処理の普及など、住民の環境意識の向上を図りながら省エネ・リサイクルのまちづくりを推進します。

- 道路交通機能の円滑化や騒音・振動防止などの環境に配慮した道路づくりの推進
- ごみの再利用、再資源化への分別の徹底に向けた情報発信、意識の向上

近年、局地的な集中豪雨による浸水や法面崩落による道路寸断など災害が各地で多発しています。安全・安心な暮らしのためにも、治山・治水対策によるハード面の対策実施や、ソフト面強化を図り防災・減災対策を進めます。

- 防災拠点の強化（指定避難場所）
- 緊急時の輸送ルート確保（幹線道路の防災性向上、代替えとなる補助幹線道路の充実）
- 地域自主防災体制のソフト面における強化（災害時の連絡体制、消防団の機能強化、救援・救助体制の確立、医療機関との連携推進、防災意識の高揚）
- 集落内の狭あい道路の改善、避難路の確保

防犯灯などを設置し、防犯対策を強化し地域の安全性強化に努めます。

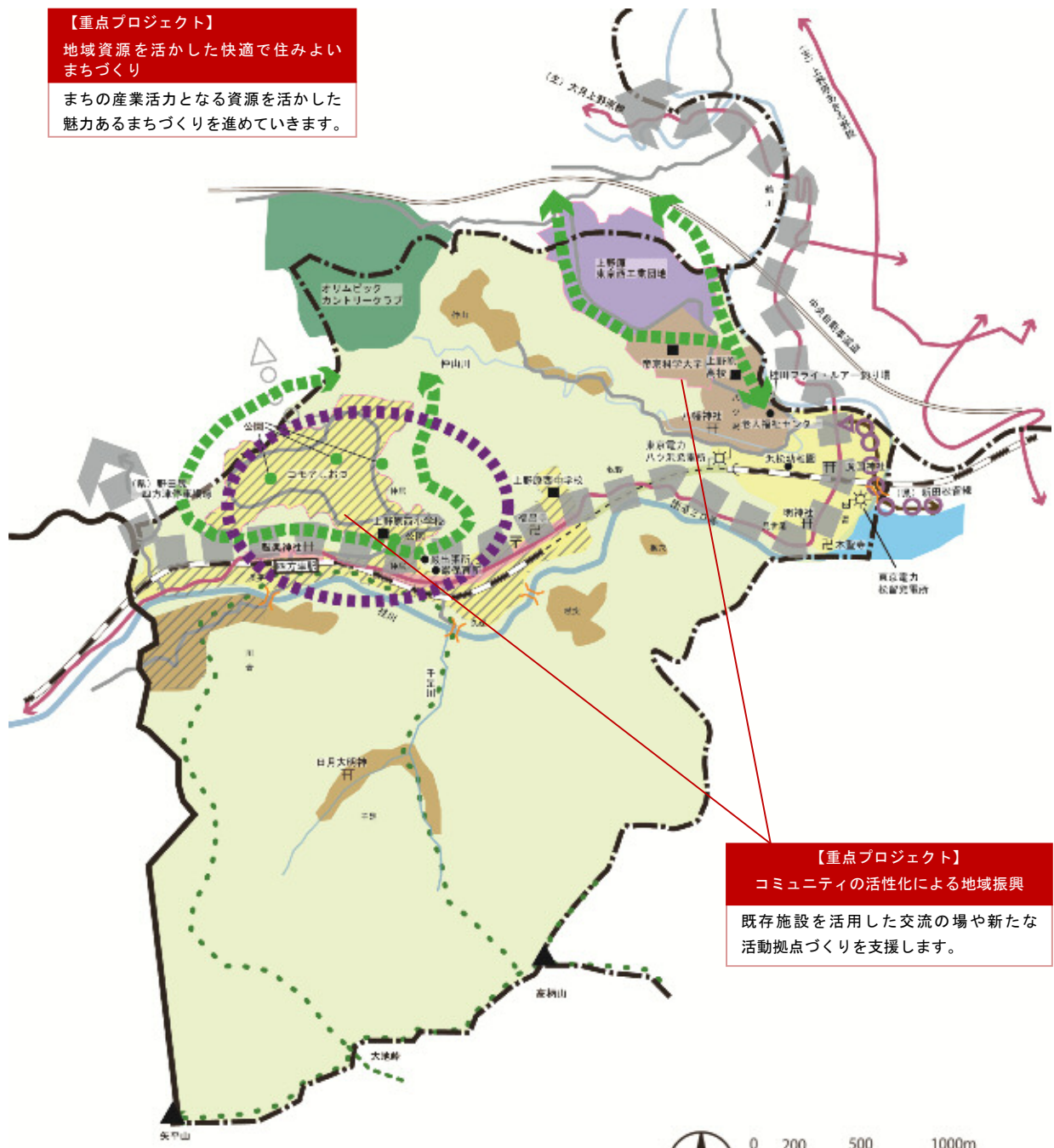
- 防犯灯の整備、主要箇所への警察官立寄所の設置など防犯施設の設置、防犯活動の啓発と普及

お年寄りや障害のある人をはじめ誰もがいきいきと心豊かに日常生活を送り、社会活動に参加できる地域を目指し、道路等の公共施設のバリアフリー化を推進します。

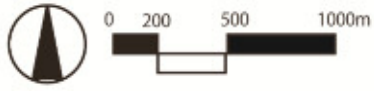
- 高齢者など誰もがいきいきと暮らせるよう、交流やふれあい活動の拠点、仕組みづくり
- 道路等の公共施設のバリアフリー化の推進

◆まちづくり方針図（巖地区）

【重点プロジェクト】
 地域資源を活かした快適で住みよいまちづくり
 まちの産業活力となる資源を活かした魅力あるまちづくりを進めていきます。



【重点プロジェクト】
 コミュニティの活性化による地域振興
 既存施設を活用した交流の場や新たな活動拠点づくりを支援します。



<道路・交通>		<土地利用>		<その他>	
— 行政界	— 中央自動車道	■ 住宅地	■ 市街地の斜面緑地の保全	■ 教育施設	■ 公共施設
- - 地区界	— 幹線道路	■ 集落	■ 水辺空間の保全と治水安全性の向上（河川）	● 公園	〒 郵便局
	○ ○ 補助幹線道路（構想路線）	■ 工業団地	/// 公共下水道全体区域	〒 神社	〒 社寺
	■ ■ 地域間連絡道路	■ 文教	— 登山道・ハイキングコース	⚡ 発電所	▲ 山地
		■ 森林		▲ 主な橋梁	
		■ ゴルフ場・レクリエーション施設等			
		● 地区拠点			

(3)島田地区

1)現状と課題

■地区の現状

○本地区は、本市の南東部に位置し、地区の北側は上野原駅をはじめ公共施設が集積する市街地、南側は緑濃い森林・丘陵地を縦断する河川や道路に沿って集落が点在する地区となっています。

○本地区は全域が都市計画区域に指定されていますが、用途地域が指定されていないため、全域が農業振興地域に指定されています。また、桂川周辺は景観保全のため、風致地区に指定されています。

○本地区の人口・世帯数は、平成22年（国勢調査）で2,251人、808世帯となっており、他地区と同様に人口は年々減少する傾向にあります。地域内の高齢化率は30%と本市の平均である26%より高くなっています。

○主な幹線道路は、南北方向に（主）四日市場上野原線が通り、中心市街地と市南部地域、相模原市を結んでいます。

○地区の北側に位置する上野原駅は、県内でも常に上位（平成24年度3位、平成23年度2位）の利用者数があり、山梨県の東の玄関口として利用されています。ただ、利用者数は、近年横ばい状態にあります。また、上野原駅は河岸段丘の既成市街地の下に位置し、中心市街地と駅との高低差が著しく、南北の連携に地形的な制約が生じています。

○地区内には、桂川の鮎釣りやゴルフ場、登山道、ハイキングコースなど、自然とふれあうレクリエーション資源があります。

○地区内には、市民プールをはじめ、野球場やテニスコート、河川公園といったスポーツ・レクリエーション施設が充実しています。



■地区の課題

①少子・高齢化、人口減少への対応

- a.交通結節点としての上野原駅の機能強化（駅周辺整備など）
- b.良好な地域環境と調和する計画的な宅地化誘導
- c.将来を担う世代等の定住促進
- d.誰もが使いやすい公共交通機能強化

②生活行動圏の広がりへの対応

- a.地域間を連絡する道路網の確立（狭あい区間等の解消など）
- b.幹線道路の機能強化
- c.中心市街地やインターチェンジとのアクセス強化
- d.桂川橋の狭小幅員改善

③価値観の多様化への対応

- a.上野原駅周辺の低利用・未利用地の活用
- b.風致地区条例の制定や景観計画の策定

④循環型社会への対応

- a.森林・緑地の維持・保全・活用

⑤ICT と情報化社会、国際化への対応

- a.上野原駅前を利用した情報発信

⑥安全・安心なまちづくりへの対応

- a.防災性の向上（消防活動困難区域解消等）

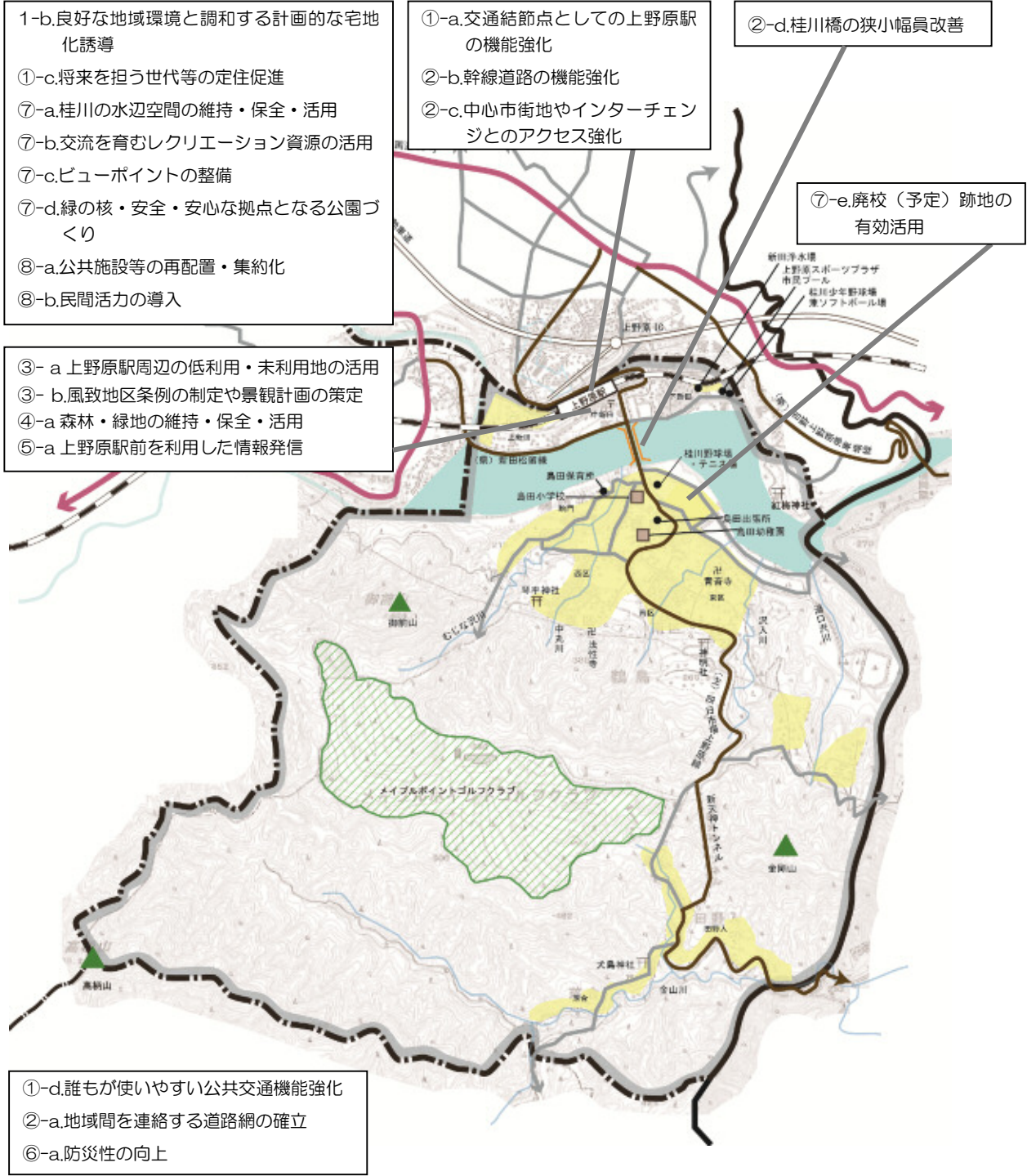
⑦地域資源等を活かしたまちづくりへの対応

- a.桂川の水辺空間の維持・保全・活用
- b.交流を育むレクリエーション資源の活用
- c.ビューポイントの整備（景観性向上）
- d.緑の核・安全・安心な拠点となる公園づくり
- e.廃校（予定）跡地の有効活用

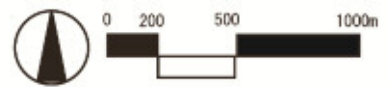
⑧都市経営コスト最適化への対応

- a.公共施設等の再配置・集約化
- b.民間活力の導入

◆地区現状と課題図（島田地区）



- | | | |
|-----------|--------|--------|
| — 行政界 | — 河川等 | ■ 教育施設 |
| — 地区界 | ■ 集落地 | ● 公共施設 |
| — 鉄道・駅 | ■ ゴルフ場 | 〒 郵便局 |
| — 中央自動車道 | | 〒 神社 |
| — 国道 | | 卍 社寺 |
| — 県道 | | ▲ 主な山地 |
| — 主要な生活道路 | | ≡ 橋梁 |



2)将来像

■地区の将来像と目標

自然の美しさと住み良さを兼ね備えたまち

◆目標

- 保全と開発が調和する緑豊かな潤いあるまちなみを目指します。
- 市の玄関口となる上野原駅周辺整備と桂川の潤いある水辺を活かしたまちづくりを目指します。
- 道路網の見直し、整備の推進、公共交通機関の利便性向上を図り、誰もが快適に移動できる交通結節点を目指します。

◆重点プロジェクト

○上野原駅の交通結節点としての機能強化および周辺地区の整備推進

本市の玄関口でもある上野原駅は、県内では常に上位の利用者数のある駅ですが、中心市街地から離れた場所に位置し、十分な広さの駅前広場もなく、アクセス道路も貧弱であるなど交通結節点としての機能は十分ではありません。駅前広場や駐車場の整備、エレベーターの設置等による歩行支援施設の整備、バリアフリー化を進め、交通結節点としての機能強化を図ります。

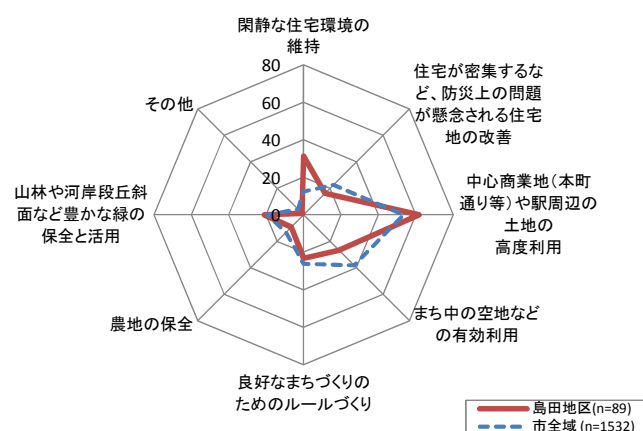
また、土地区画整理事業を活用した駅前広場やアクセス道路、駅周辺の道路整備と併せ、駅周辺地区の市街化を進めます。また、上野原駅および周辺地区の調和のとれた土地利用を進めるため、農業振興地域および風致地区の見直しを進め、用途地域の指定や地区計画等の導入を検討していきます。

○計画的かつ段階的な宅地化誘導

本地区は、桂川の水辺や里山の風景、緑地資源に囲まれた風光明媚な風景を有しています。また、風致地区に指定され水辺など良好な自然を維持した開発が進められています。この良好な地域環境と調和する住宅地整備を計画的、段階的に推進します。

◆地区住民の意向・声

Q. 土地利用（土地の使い方）について、具体的にどのような点を優先的に進めるべきとお考えになりますか。



【地域住民の声】

- ・山梨県の東の玄関口として、上野原駅南口の開発を行い、エレベーターの設置やバスターミナル、タクシー、送迎用自動車のスペースの整理を行う。また、周辺には駅駐在所設置、小児一時預かり所、大型店舗、市役所機能郵便局の窓口設置、コンビニ、スーパーマーケット、駅通勤者のための駐車場の設置、駅利用者の利便機能（カフェ喫茶店等）および住宅エリアも設けていただきたいです。
- ・上野原は都会に近い良い場所なので、若い世代が住みやすく、通勤にも便利であるよう駅前開発を早急に進めていただきたい。若さあふれる、活気で健康的なエネルギーあるまちにするには、どうしたらよいか皆で知恵を絞り一日も早い着工をお願いします。

■土地利用の方針

都市機能の強化と水辺や森林・緑地と調和した居住空間・レクリエーション空間の形成を進めます

本地区は、桂川の潤いある水辺空間や背後の森林・緑地空間と一体となった潤いある住宅地、集落地の形成を図るとともに、上野原駅周辺整備や桂川周辺の水と緑のレクリエーション空間づくりなど、中心市街地とは異なる市の玄関口にふさわしい賑わいのある交流の場として整備を進めます。

- 豊かな樹林地や桂川の水辺を背景とした住宅地については、低層住宅を主体とした緑と潤い豊かな地域環境と調和した住宅地を形成していきます。特に、上野原駅周辺は、現行の風致地区の見直しと計画的かつ段階的な土地の高度利用を図ります。また、それ以外の区域については、緑地資源の保全と良好な景観を損なわないよう、一定のルールに基づいた計画的な土地利用を進めていきます。
- 田野入区などの集落地は、里山の集落環境の維持・保全を図るとともに、農用地の保全、遊休農地の再生・活用を進めていきます。
- 上野原駅周辺については、用途地域の指定による住宅と商業施設などが立地する市街化を進めるとともに、周辺地区と調和のとれた地区計画等の導入を検討していきます。
- 桂川周辺の河川公園は、レクリエーション施設等の充実、水面の有効活用を図り、スポーツ・レクリエーションの場としての整備を進めます。
- 市街地や集落地の背後に広がる森林は、保水（水源かん養）、景観保全の視点から計画的に保全を図るとともに、地域住民や来訪者など、誰もが潤いある自然を楽しめるよう登山道などの自然レクリエーション活用を進めていきます。

■まちづくりの方針

1. まちの玄関口となる上野原駅周辺整備を進め、利便性が高く魅力あるまちづくりを進めます

①上野原駅周辺整備と交通結節点としての機能を強化します

河岸段丘の急峻な地形構造上に位置する上野原駅は、地形的制約から車も人も駅へのアクセスが制約されている状況にあります。今後は、駅周辺の整備を進め交通結節点としての機能を高めるとともに、中心市街地や他地域とのアクセス向上を図り、誰もが利便性や魅力を感じる玄関口として整備を進めます。

- ・上野原駅周辺のバリアフリー化の推進（昇降施設等の設置 など）
- ・上野原駅周辺の基盤整備の推進（南口駅前広場およびアクセス道路の整備、駐車場・駐輪場の確保、バス・タクシーの南口への機能移転、北口環境整備）

②賑わいと交流を高める上野原駅周辺の施設整備と駅前の顔づくりを進めます

上野原駅周辺は、多くの人が行き交う市の玄関口としての魅力に欠けている状況にあります。

今後、桂川周辺のスポーツ・レクリエーション施設の整備と一体となった駅周辺のまちづくりを推進します。また、周辺の地区と調和のとれた用途地域指定や風致地区の見直しを図るとともに、地区計画の導入等により、民間活力が参入しやすい環境を整え、市の玄関口にふさわしい賑わいのある交流の場の整備を進めます。

- ・土地区画整理事業による低利用地・未利用地の有効活用
- ・上野原駅周辺への計画的な住宅・商業施設整備の促進

- ・将来を担う世代などの定住促進（通勤通学の利便性向上など首都圏への通勤圏内であるという地の利を活かした定住促進対策の推進と子育て支援の強化 など）
- ・上野原駅周辺整備により設置する施設を利用した情報発信（地域情報の収集、インターネットでの情報提供、情報・案内マップづくり、人材活用と育成 など）

2. 豊かな自然に多くの人が集う、自然と共生した楽しい交流の場づくりを進めます

①桂川周辺の潤いある水辺空間や緑、生態系を維持・保全します

地区を東西に流れる桂川は、豊かな自然環境を象徴する貴重な資源であります。また、保水（水源かん養）等の機能も併せ持つ周辺森林は、風光明媚な景観の重要な要素ともなっているため、この河川や森林を維持・保全し、水と緑の豊かさが実感できる美しい風土の原点として、次世代に引き継いでいきます。

- ・段丘斜面緑地の保全（市街地周辺の良い緑地・景観資源の保全）
- ・水辺空間の維持・保全・活用（生態系、水質等の維持・保全、治水対策の強化）
- ・森林地域の維持・保全・活用（保水（水源かん養）、荒廃した森林の再生と活用）
- ・生態系の維持・保全と農業を支援するための鳥獣害への対応（生息調査、防除対策の検討）

②親水空間や森林資源を活用し、多くの人が集い楽しむ場を創造します

本地区は、上野原駅を玄関口として多くの人が自然とふれあうことを体感できるよう、スポーツ・レクリエーション機能を高めるなど、水辺とまちなみが交わる空間づくりや、新たな交流と活動が生まれる場を創造していきます。

- ・桂川の周辺整備（河川公園と一体的なスポーツ・レクリエーション施設 など）
- ・登山道・ハイキングコースの整備（案内・サイン整備、スポット的な溜まり空間、トイレ整備、マップづくり など）
- ・ビューポイントの整備

3. 利便性の高い交通網整備を推進します

①地域を結ぶ道路網の確立と機能強化を図ります

各地区との連携・交流を強化するため、地区内の幹線道路・補助幹線道路の機能強化に努めます。地区北側は上野原駅周辺整備に併せた道路交通網の機能強化を図るとともに、（主）四日市場上野原線は、中心市街地と本地区を結ぶ重要な路線として整備促進を図ります。

- ・幹線道路・補助幹線道路の機能強化（（主）四日市場上野原線（桂川橋を含む）、（県）新田松留線 など）
- ・循環型公共交通体系の確立（公共交通の充実、山間地域への交通手段の強化）

②交通環境を改善し、人にやさしいみちづくりを進めます

道路は、暮らしに最も密着した公共施設ですが、地区の幹線道路である（主）四日市場上野原線は多くの児童・生徒が利用する通学路と重複し、十分な安全性が確保できていない状況があります。このような交通環境を改善し、安全で快適に利用できるみちづくりを進めていきます。

- ・安全・安心な交通環境の確保（通学路等の安全性の確保、危険性の高い交差点の改良）
- ・道路環境の美化（道路緑化推進、ごみのポイ捨て禁止、違法看板撤去、地域住民による美化

活動・維持管理の推進 など)

4. 安心・快適に暮らせる住環境づくりを進めます

①良好な地域環境と調和する計画的な宅地化を誘導します

良好な景観を有する本地区は、今後の住宅・宅地の需要動向を把握しながら、無秩序な開発・宅地化を抑制し、望ましい住空間の形成を図るため、景観計画等の策定に併せ風致地区のあり方についても検討していきます。

・風致地区条例の制定や景観計画の策定

②地域で暮らすために必要な機能を確保し、安心な暮らしを提供します

住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、既存施設を有効に活用し、生活に必要な機能が身近なところに確保できるような暮らしやすさの向上を図ります。

・廃校跡地の有効活用
・コミュニティセンターの活用や子育て支援の充実

③安心・快適な住環境づくりを進めます

身近な生活道路の整備を進めます。

・補助幹線道路等の改良・整備（狭あい道路や見通しの悪い交差点 など）
・交通安全施設の機能充実（道路屈曲部の改善、隅切りの設置、カーブミラー、街路灯の設置など）

少子化、核家族化が進む中、未来を担う子どもたちを地域ぐるみで育てていくことが一層重要になってきます。そのため、住宅地のオープンスペースや空き地などのオープンスペースを有効活用し、身近な公園や小広場の整備を進めます。

給排水施設の整備・促進を図ります。駅周辺においては、段階的な公共下水道整備を推進し、その他の区域では地域に応じた生活排水処理方式（合併浄化槽）を普及していきます。

・駅周辺における段階的な上・下水道整備
・地域に応じた生活排水処理の普及（合併浄化槽の普及）

ごみの減量化や自家処理の普及など、住民の環境意識の向上を図りながら省エネ・リサイクルのまちづくりを推進します。

・ごみの再利用、再資源化への分別の徹底に向けた情報発信、意識の向上

近年、局地的な集中豪雨による浸水や法面崩落による道路寸断など災害が各地で多発しています。安全・安心な暮らしのためにも、治山・治水対策によるハード面の対策実施や、ソフト面強化を図り防災、減災対策を進めます。

・防災拠点の強化（指定避難場所）
・緊急時の輸送ルート確保（幹線道路の防災性向上、代替となる補助幹線道路の充実）
・地域自主防災体制のソフト面における強化（災害時の連絡体制、消防団の機能強化、救援・

救助体制の確立、医療機関との連携効果、防災意識の高揚)

- 集落内の狭あい道路の改善、避難路の確保

防犯灯などを設置し、防犯対策を強化し地域の安全性強化に努めます。

- 防犯灯の整備、主要箇所への警察官立寄所の設置など防犯施設の設置、防犯活動の啓発と普及

お年寄りや障害のある人をはじめ誰もがいきいきと心豊かに日常生活を送り、社会活動に参加できる地域を目指し、道路等の公共施設のバリアフリー化を推進します。

- 高齢者など誰もがいきいきと暮らせるよう、交流やふれあい活動の拠点、仕組みづくり
- 道路等の公共施設のバリアフリー化の推進

◆まちづくり方針図（島田地区）

【重点プロジェクト】

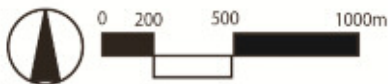
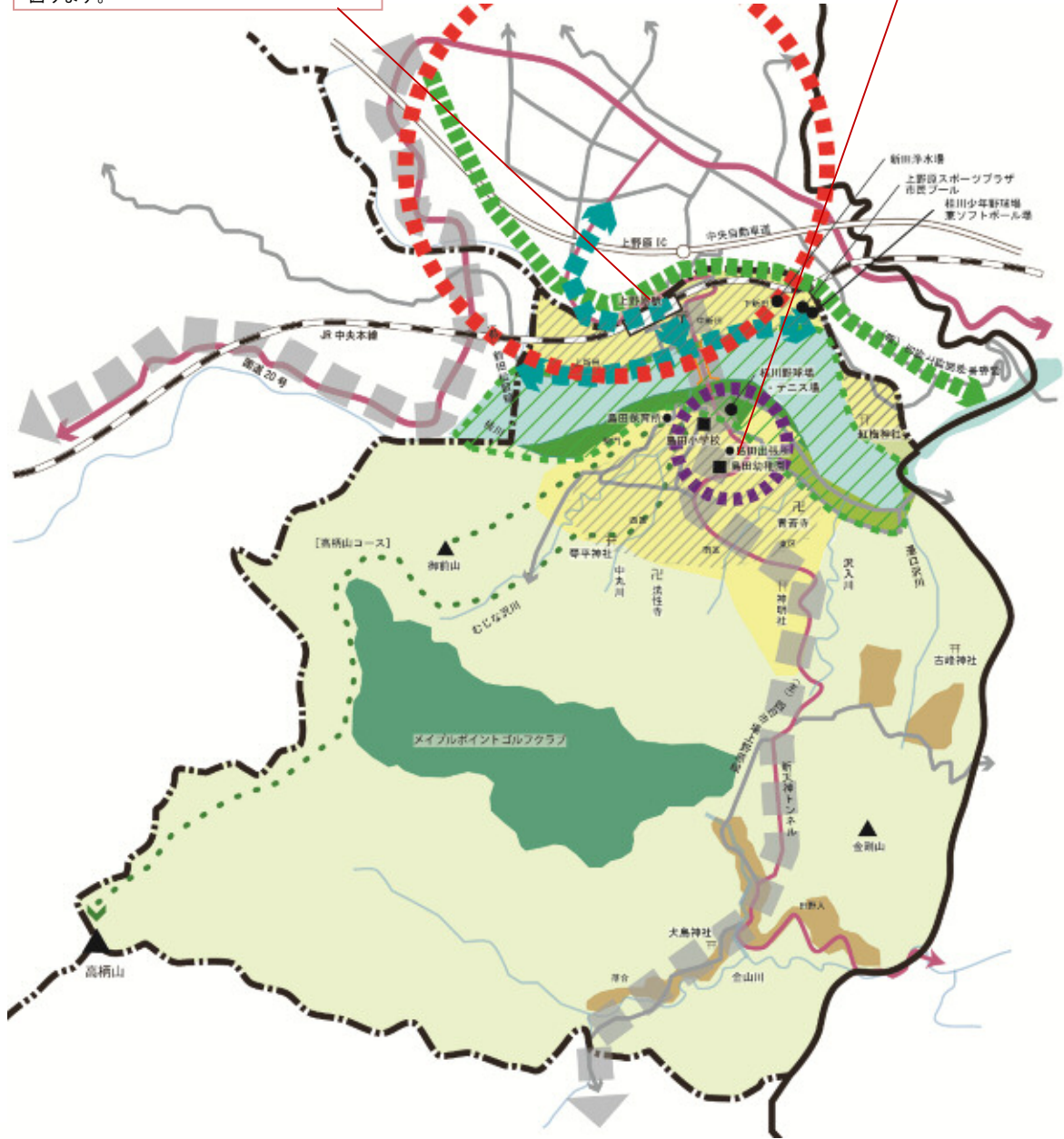
上野原駅の交通結節点としての機能強化
および周辺地区の整備推進

駅前広場や駐車場の整備、エレベーターの設置等による歩行支援施設の整備、バリアフリー化を進め、交通結節点としての機能強化を図ります。

【重点プロジェクト】

計画的かつ段階的な宅地化誘導

良好な地域環境と調和する住宅地整備を計画的、段階的に推進します。



<ul style="list-style-type: none"> — 行政界 - - 地区界 <道路・交通> — 中央自動車道 — 幹線道路 — 補助幹線道路等 ■ 地域間連絡道路 	<ul style="list-style-type: none"> <土地利用> ■ 住宅地 ■ 集落 ■ 主な公園・緑地 ■ レクリエーション施設等 ■ 森林 ■ ゴルフ場 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域拠点 ● 地区拠点 ● 観光レクリエーション拠点 (緑の拠点) 	<ul style="list-style-type: none"> <その他> ■ 斜面緑地の保全 ■ 水辺空間の保全と治水安全性の向上 (河川) ■ 緑と景観のシンボル軸 /// 公共下水道全体区域 ● 登山道・ハイキングコース ○ 橋梁 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 教育施設 ● 公共施設 〒 郵便局 卍 神社 卍 社寺 ▲ 山地
---	---	---	--	---

(4)中部丘陵地域

1)現状と課題

■地域の現状

○本地域は、本市の西部に位置し、大目地区、甲東地区および大鶴地区を擁し、仲間川等の河岸段丘上に断片的に集落が分布する緑濃い森林・丘陵地となっています。

○本地域南東部の大鶴地区大柵区が都市計画区域に指定されているのみで、地域の大部分は都市計画区域が指定されていません。

○本地域の人口・世帯数は、平成22年（国勢調査）で3,297人、1,039世帯となっています。また、高齢化率は35%と市内でも高い地域のひとつとなっています。

○地域を東西に中央自動車道が横断し、談合坂サービスエリアが位置しています。東西方向には、旧甲州街道に沿った（主）大月上野原線が市街地と各集落、大月市方面を結び、南北方向は（県）野田尻四方津停車場線が国道20号や巖地区を結んでいます。

○地域内には、旧甲州街道の宿場町であった鶴川宿、野田尻宿、犬目宿があり、昔の面影を残す遺構もあります。また、桜の名所としても名高い大野貯水池、扇山を中心とした登山道やハイキングコース、溪流に点在する滝、ゴルフ場などのレクリエーション施設があります。



■地域の課題

①少子・高齢化、人口減少への対応

- a. 里山集落地の住環境、生活基盤の改善・整備
- b. 人口減少の歯止めと里山居住の促進
- c. 誰もが使いやすい公共交通の機能強化

②生活行動圏の広がりへの対応

- a. 地域間を連絡する道路網の整備
- b. (仮称) 談合坂スマートインターチェンジ予定地周辺のアクセス道路の整備

③価値観の多様化への対応

- a. 景観計画の策定
- b. 耕作放棄地や荒廃した山林の再生・活用

④循環型社会への対応

- a. 森林・緑地の維持・保全・活用
- b. 水辺空間の維持・保全・活用
- c. エコタウン構想の検討

⑤ ICTと情報化社会、国際化への対応

- a. 談合坂サービスエリアを利用した情報発信
- b. (仮称) 談合坂スマートインターチェンジ予定地周辺の活用
- c. 産・学・官連携の強化

⑥ 安全・安心なまちづくりへの対応

- a. 安全・安心な交通環境の強化
- b. かけ崩れ等危険箇所等の解消

⑦ 地域資源等を活かしたまちづくりへの対応

- a. 旧宿場町の歴史・文化を活かしたまちづくりの展開
- b. (仮称) 談合坂スマートインターチェンジ整備に併せた地域振興
- c. 良好な自然環境のレクリエーション活用
- d. 農業・林業の再生(6次産業化)
- e. 廃校跡地の有効活用(旧大目小、旧平和中、旧甲東小(和見分校も含む)、旧大鶴小)

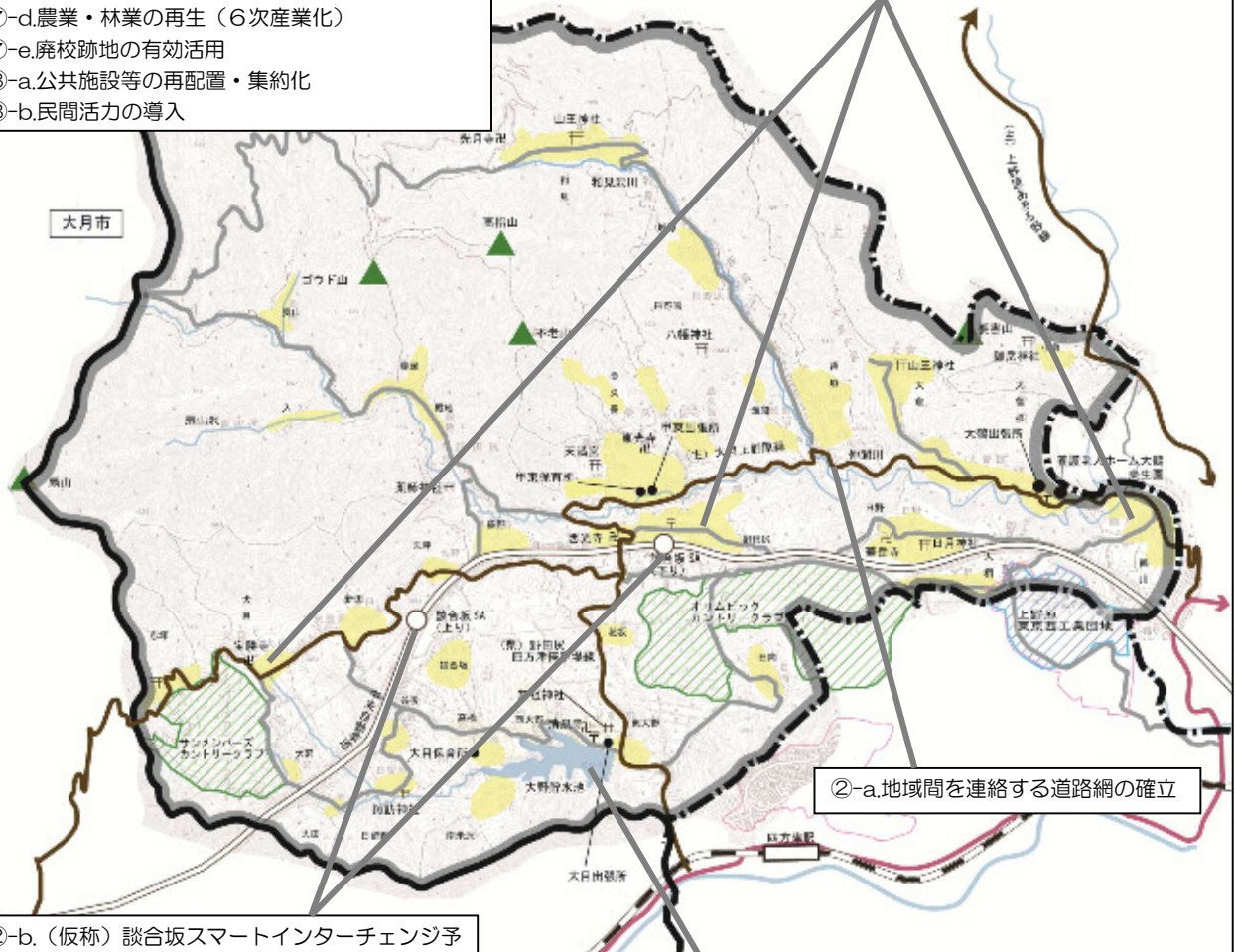
⑧ 都市経営コスト最適化への対応

- a. 公共施設等の再配置・集約化
- b. 民間活力の導入

地域現状と課題図（中部丘陵地域）

- ①-a. 里山集落地の住環境、生活基盤の改善・整備
- ①-b. 人口減少の歯止めと里山居住の促進
- ①-c. 誰もが使いやすい公共交通の機能強化
- ③-a. 景観計画の策定
- ③-b. 耕作放棄地や荒廃した山林の再生・活用
- ④-a. 森林・緑地の維持・保全・活用
- ④-c. エコタウン構想の検討
- ⑤-c. 産・学・官連携の強化
- ⑥-a. 安全・安心な交通環境の強化
- ⑥-b. かけ崩れ等危険箇所等の解消
- ⑦-d. 農業・林業の再生（6次産業化）
- ⑦-e. 廃校跡地の有効活用
- ⑧-a. 公共施設等の再配置・集約化
- ⑧-b. 民間活力の導入

⑦-a. 旧宿場町の歴史・文化を活かしたまちづくりの展開

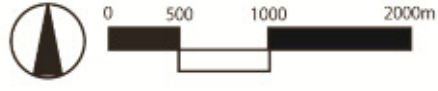


②-a. 地域間を連絡する道路網の確立

- ②-b. (仮称) 談合坂スマートインターチェンジ予定地周辺のアクセス道路の整備
- ⑤-a. 談合坂サービスエリアを利用した情報発信
- ⑤-b. (仮称) 談合坂スマートインターチェンジ予定地周辺の活用
- ⑦-b. (仮称) 談合坂スマートインターチェンジ整備に併せた地域振興

- ④-b. 水辺空間の維持・保全・活用
- ⑦-c. 良好な自然環境のレクリエーション活用

行政界	用途地域	教育施設
地区界	河川等	公共施設
鉄道・駅	集落地	郵便局
中央自動車道	工業団地	神社
国道	ゴルフ場	社寺
県道		山地
主要な生活道路		



1)地域の将来像

■地域の将来像と目標

豊富な地域資源を活かし、活力を次世代に引き継ぐまち

◆目標

- 談合坂サービスエリアおよび（仮称）談合坂スマートインターチェンジを活かし、地域に人を呼び込むための地域資源・地域産業の展開を目指します。
- 自然環境と調和した土地利用や里山居住の推進による定住促進へ向けた取り組みを進めます。

◆重点プロジェクト

○交通環境を活かした地域活性化の推進

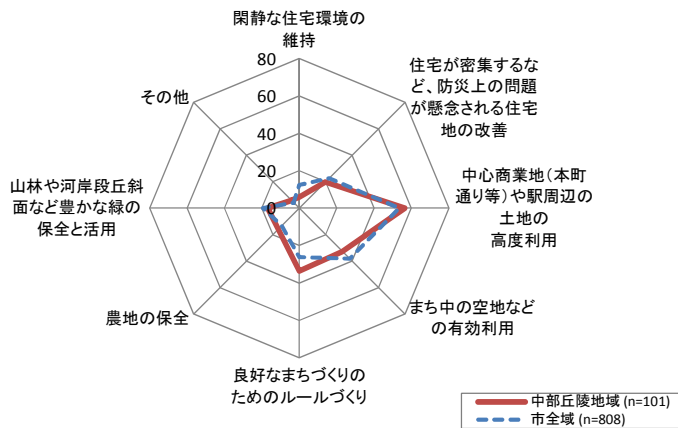
本地域は、中央自動車道や談合坂サービスエリアが位置する広域交通の要衝であり、談合坂サービスエリアには、スマートインターチェンジの整備が予定されるなど、地域に人を呼び込むためにも魅力ある新たな地域産業を展開します。

○旧甲州街道宿場町の風土の歴史を受け継ぐまちづくりの推進

本地域は、旧甲州街道の宿場町として栄えた歴史的資源が点在する地域です。こうした歴史的資源を地域の宝としてとらえ、文化活動や交流の場として積極的に活用していきます。

◆地域住民の意向・声

Q. 土地利用（土地の使い方）について、具体的にどのような点を優先的に進めるべきとお考えになりますか。



【地域住民の声】

- ・スマートインターチェンジができるとともに周りが発展するために、道路や公園、その他の開発をしてもらいたいです。人口も増え、企業も増やし、上野原市が発展につながってもらいたいです。
- ・本地区には、富士山がよくみえる眺望のよい場所が多数あるため、桜やもみじを植えるなど、特色あるハイキングコースを整備してほしいです。
- ・扇山周辺の登山道等の整備を行ってほしい。本地区は、甲州街道や不動様等の歴史的な文化財も多数あるため、観光資源として活用してもらいたいです。

■土地利用の方針

談合坂サービスエリアおよび（仮称）談合坂スマートインターチェンジを活用した交流拠点の形成と自然環境と調和した土地利用の確保

本地域は、中央自動車道や談合坂サービスエリアが位置する交通の要衝ですが、地域内は仲間川や旧甲州街道、大野貯水池周辺などに点在する里山の暮らしを営む穏やかな集落地域となっています。今後も、この落ち着いた環境を維持するとともに、かつての街道筋の歴史の面影が継承できる土地利用を進めていきます。

- 仲間川や旧甲州街道沿道、大野周辺に点在する集落地は、里山の集落環境の維持・保全を図るとともに、農用地の保全、遊休農地の再生・活用を進めていきます。
- 出張所、学校などの公益性の高い施設が立地する地区は、地域のコミュニティ活動の機能を担う地区拠点として整備を進めていきます。
- 談合坂サービスエリア周辺は、地域特産物の施設内販売など、農業の活性化に寄与しています。さらに、スマートインターチェンジの周辺整備と併せて観光レクリエーション拠点として交流人口の増加を図ります。
- 上野原東京西工業団地へのアクセス道路の整備を進めていきます。

■まちづくりの方針

1. 地域の活力を高め安心した暮らしを次世代に引き継ぐまちづくりを進めます

①立地条件を活かし新たな地域産業を展開します。

本地域は、農村集落を背景に各山岳地へ至る緑地資源、旧甲州街道・宿場町の歴史資源、中央自動車道談合坂サービスエリアや2か所のゴルフ場を擁し、地域活力の可能性を秘めた地域です。また、談合坂サービスエリアにスマートインターチェンジの整備が決定し、今後、導入による地域の利便性の向上や観光振興への活用が期待されています。当地域では人口の減少や遊休農地が増えています。今後は優良農地の維持・保全とともに、これらの立地条件や地域資源を活かし、新たな地域振興を進めていきます。

- ・観光産業の活性化拠点（談合坂サービスエリアにおける地場産物の販売、地域情報発信 など）
- ・談合坂サービスエリア内の空き地の活用（情報発信の場としての有効活用 など）
- ・中央自動車道の周辺を活用した地域振興（情報発信および中心市街地への動線確保 など）
- ・スマートインターチェンジ整備に併せた地域振興（周辺観光拠点への案内誘導 など）
- ・（仮称）談合坂スマートインターチェンジへのアクセス道路の整備
- ・地場産物の生産・販売の促進（農産物直売所などを利用した販路拡大）
- ・遊休農地の有効活用（滞在型市民農園、体験学習農園、オーナー制度、菜園団地などの検討）
- ・農業や林業の活性化を促す6次産業化（地域ビジネスの展開と新たな業態の創出）

②人口定着と里山・農村居住を促進します。

本地域では地域資源の掘り起こしを行い、森林や農地と住宅を融合させたまちづくりを推進するなど、地域全体が活性化できる仕組みづくりを構築し、次世代に引き継いでいくことが重要です。

- ・里山居住の推進（住宅支援・子育て支援 など）

- ・市街地近郊のベッドタウンとして通勤や生活利便性の確保
- ・自然と融合した生活環境、親子留学の奨励（山村留学、ふるさと体験ツアー、グリーンツーリズム など）
- ・談合坂サービスエリアやインターネット等を活用した地域情報発信の充実（地域情報の収集（空き家情報など）、インターネットでの情報提供、情報・案内マップづくり、人材活用と育成、地域ボランティアやNPOの立ち上げ など）

2. 豊かな自然環境や風土の歴史を受け継ぎ、多くの人が集い楽しめるまちづくりを進めます

①豊かな自然環境を維持・保全・活用します

地域を東西に流れる仲間川や大野貯水池などは、潤いある水辺を象徴する貴重な資源でもあります。また、山地へ至る森林は、林業生産基盤のみならず、自然生態系や風土の保全、保水（水源かん養）等の機能も併せ持っています。これら骨格的な環境・景観要素ともなる河川や水面、森林を維持・保全し、水と緑の豊かさが実感できる美しい風土の原点として、次世代へ引き継いでいくことが重要です。

- ・水辺空間の維持・保全・活用（生態系、水質等の維持・保全、治水対策の強化）
- ・森林地域の維持・保全・活用（保水（水源かん養）、荒廃した森林の再生と活用）
- ・生態系の維持・保全と農業を支援するための鳥獣害への対応（生息調査、防除対策の検討）

②地域の歴史を受け継ぎ、多くの人が集い楽しめるまちづくりを推進します

本市は、かつては本陣がおかれ甲州街道の宿場町として栄え、250軒ほどの商家も立ち並んでいたとされています。街道の記憶はそこに住む人々の暮らしぶりや、歩く都度に変化する美しい自然を多くの旅人に伝えてきました。中部丘陵地域の旧街道の道すじには、今もその面影を残す地名やまちなみ、かつての情感を誘う自然や眺望などが残されています。この地域の歴史を埋もれさすことのないよう、甲州街道の歴史を探訪する道すじ・景観づくりを進めていきます。

- ・旧甲州街道の歴史のみちづくり（犬目宿、野田尻宿、鶴川宿、石畳、特色ある緑化など街道のまちなみ形成、案内板の整備、舗装・街灯整備、サイン・休憩スポット、まちかど広場の整備 など）
- ・ビューポイントの整備（富嶽三十六景「犬目峠の富士」の眺望などの既存ポイントの修景整備や景観デッキの設置による新たなポイント整備 など）

③集い楽しむ交流レクリエーション活動を進めます

本地域は、各集落の背景に広がる森林の緑豊かな環境や、春の訪れが水面の桜から始まるといわれる大野貯水池などの良好な地域資源を有しています。これら地域資源を活かし、旧甲州街道の歴史のみちづくりと併せ、各資源が有機的に結びあうことで魅力を高め、多くの人がレクリエーション活動などを通して地域の豊かな自然や文化と触れ合う、新たな交流と活動が生まれる場を創造していきます。

- ・湖畔レクリエーション公園の整備（大野貯水池周辺；花見の名所、渡り鳥飛来の環境整備、散策路・遊歩道、公園施設整備、市民主体による維持・管理の推進 など）
- ・登山道・ハイキングコースの整備（案内・サイン整備、スポット的な溜まり空間・トイレ整備、マップづくり など）
- ・自然観察路等の整備（バードウォッチング、フィッシング、キャンプ場、眺望点などの溜まり

りの広場の整備（林道、登山道等）

3. 地域を結ぶ道路の機能強化と、安全・安心な交通環境づくりを進めます

①地域を結ぶ道路網を確立します

本地域は、複雑な地形構造から災害時における道路寸断などの集落の孤立化が懸念されています。したがって、各地域との連携・交流を強化するため、地域内の幹線道路・補助幹線道路の機能強化に努めます。

- ・地域間を連絡する道路網の整備促進（狭あい区間の解消、がけ崩れ等危険個所の解消（（主）大月上野原線、（県）野田尻四方津停車場線）
- ・アクセス路線の検討（地域のアクセス性向上、災害時の代替ルートの確保（中部丘陵地域～巖地区））
- ・循環型公共交通体系の確立（公共交通の充実、山間集落地域への交通手段強化）

②交通環境を改善し人にやさしいみちづくりを進めます

道路は、生活や経済活動に不可欠な基本的な社会資本であり、暮らしに最も密着した公共施設といえます。その道路が危険であったり、通行に不便を抱えるようであれば、暮らしは不満の多いゆとりのないものになってしまいます。特に、幹線道路と重複する通学路の改善や、信号機・横断歩道の整備など、交通環境を改善し、安全で快適に利用できる誰にもやさしいみちづくりを進めていきます。

- ・通学路等の交通安全性の確保（交通速度抑制、交通規制 など）
- ・信号機・横断歩道の整備促進
- ・道路環境の美化（道路緑化推進、ごみのポイ捨て禁止、違法看板撤去、地域住民による美化活動・維持管理の推進 など）

4. 里山の暮らしの豊かさを誰もが感じる住環境づくりを進めます

①地域で暮らすために必要な機能を確保し、安心な暮らしを提供します

住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、既存施設を有効に活用し、生活に必要な機能が身近なところに確保できるような暮らしやすさの向上を図ります。

- ・廃校跡地の有効活用
- ・エコタウン構想の検討（災害時の電力活用の検討 など）
- ・農業や林業の活性化を促す6次産業化（地域ビジネスの展開と新たな業態の創出）

②安心な暮らしを営む住環境づくりを進めます

身近な生活道路の整備を進めます。

- ・補助幹線道路等の改良・整備（狭あい道路や見通しの悪い交差点 など）
- ・交通安全施設の機能充実（道路屈曲部の改善、隅切りの設置、カーブミラー、街路灯の設置など）

少子化、核家族化が進む中、未来を担う子どもたちを地域ぐるみで育てていくことが一層重要になってきます。そのため、住宅地のオープンスペースや空き地などのオープンスペースを有効

活用し、身近な公園や小広場の整備を進めます。

水資源の開発・確保に努め簡易水道の統合など給水施設の整備を進めます。山間集落地では地域に応じた生活排水処理方式（合併浄化槽）を普及していきます。

ごみの減量化や自家処理の普及など、住民の環境意識の向上を図りながら省エネ・リサイクルのまちづくりを推進します。

- 道路交通機能の円滑化や騒音・振動防止などの環境に配慮した道路づくりの推進
- ごみの再利用、再資源化への分別の徹底に向けた情報発信、意識の向上

近年、局地的な集中豪雨による浸水や法面崩落による道路寸断など災害が各地で多発しています。安全・安心な暮らしのためにも、治山・治水対策によるハード面の対策実施や、ソフト面強化を図り防災、減災対策を進めます。

- 防災拠点の強化（指定避難場所）
- 緊急時の輸送ルート確保（幹線道路の防災性向上、代替えとなる補助幹線道路の充実）
- 地域自主防災体制のソフト面における強化（災害時の連絡体制、消防団の機能強化、救援・救助体制の確立、医療機関との連携効果、防災意識の高揚）
- 集落内の狭あい道路の改善、避難路の確保

防犯灯などを設置し、防犯対策を強化し地域の安全性強化に努めます。

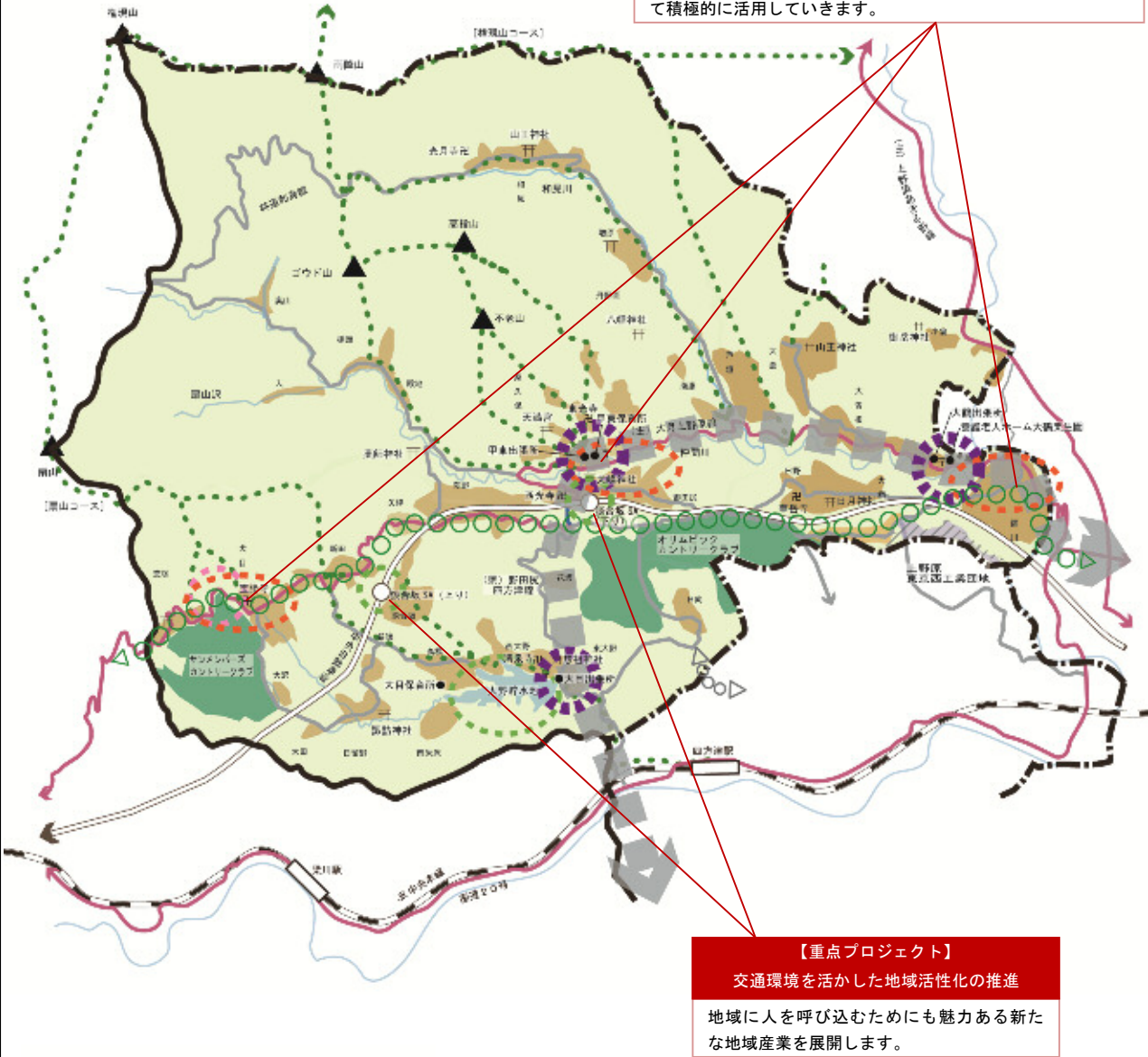
- 防犯灯の整備、主要箇所への警察官立寄所の設置など防犯施設の設置、防犯活動の啓発と普及

お年寄りや障害のある人をはじめ誰もがいきいきと心豊かに日常生活を送り、社会活動に参加できる地域を目指し、道路等の公共施設のバリアフリー化を推進します。

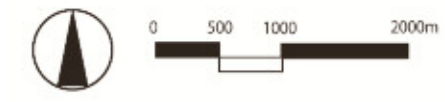
- 高齢者など誰もがいきいきと暮らせるよう、交流やふれあい活動の拠点、仕組みづくり
- 道路等の公共施設のバリアフリー化の推進

◆まちづくり方針図（中部丘陵地域）

【重点プロジェクト】
 旧甲州街道宿場町の風土の歴史を受け継ぐまちづくりの推進
 歴史的資源を地域の宝としてとらえ、文化活動や交流の場として積極的に活用していきます。



【重点プロジェクト】
 交通環境を活かした地域活性化の推進
 地域に人を呼び込むためにも魅力ある新たな地域産業を展開します。



<ul style="list-style-type: none"> 行政界 地区界 	<道路・交通> <ul style="list-style-type: none"> 中央自動車道 幹線道路 補助幹線道路 (構想路線) 地域間連絡道路等 旧甲州街道 	<土地利用> <ul style="list-style-type: none"> 集落 工業団地 森林 ゴルフ場 地区拠点 観光レクリエーション拠点・緑の拠点 眺望拠点 	<その他> <ul style="list-style-type: none"> 水辺空間の保全と治水安全性の向上 旧宿場町 公共下水道全体区域 登山道・ハイキングコース 教育施設 公共施設 郵便局 神社 社寺 山地
--	---	---	---

(5)鶴川流域地域

1)現況と課題

■地域の特性

○本地域は、本市の北部に位置し、地域の中心を流れる鶴川に沿った細長い河岸段丘の集落地と、緑濃く山深い森林地域となっています。

○本地域には、都市計画区域が指定されていません。

○本地域の人口・世帯数は、平成22年（国勢調査）で1,935人、745世帯となっており、本市の総人口に占める割合は約7.7%と最も低く、人口・世帯数ともに減少傾向にあります。地域における高齢者率は39%と市内で最も高齢化が進行しています。

○幹線道路網は、南北方向に（主）上野原あきる野線が中心市街地と檜原村方面を結んでおり、この他東西方向に（主）上野原丹波山線や（県）桐原藤野線が各集落を結んでいます。

○桐原地区は長寿の里として全国的に名前が知られ、西原地区は、そばの里づくりの一環として羽置の里びりゅう館が活用されるなど、郷土色豊かな里山の暮らしが地域活性化の一翼を担っています。また、神楽舞や獅子舞奉納などの伝統行事が受け継がれています。



■地域の課題

①少子・高齢化、人口減少への対応

- a.山間集落地の住環境、生活基盤の改善・整備（定住促進）
- b.人口減少の歯止めと山間居住の促進
- c.地域コミュニティの維持・向上
- d.医療サービスの充実
- e.誰もが使いやすい公共交通の機能強化

②生活行動圏の広がりへの対応

- a.地域間を連絡する道路網の確立

③価値観の多様化への対応

- a.景観計画の策定
- b.耕作放棄地や荒廃した山林の再生・活用

④循環型社会への対応

- a.森林・緑地資源の維持・保全・活用
- b.水辺空間の維持・保全・活用

⑤ ICTと情報化社会、国際化への対応

- a.ふるさと長寿館・羽置の里びりゅう館を利用した情報発信

⑥安全・安心なまちづくりへの対応

- a.安全・安心な交通環境の強化
- b.がけ崩れ等危険箇所等の解消

⑦地域資源等を活かしたまちづくりへの対応

- a.山間地の特性を活かした地場産業の展開（6次産業化）、潜在資源の活用
- b.自然レクリエーション資源の有効活用（ふるさと長寿館、青少年自然の里、羽置の里びりゅう館、平野田休養村、一宮神社等の観光拠点）
- c.伝統芸能・文化の継承（軍刀利神社、獅子舞奉納祭、古在家神楽舞）
- d.廃校跡地の有効活用（旧柵原小、旧柵原中、旧西原小）

⑧都市経営コスト最適化への対応

- a.公共施設等の再配置・集約化
- b.民間活力の導入

◆地域の現状と課題図（鶴川流域地域）

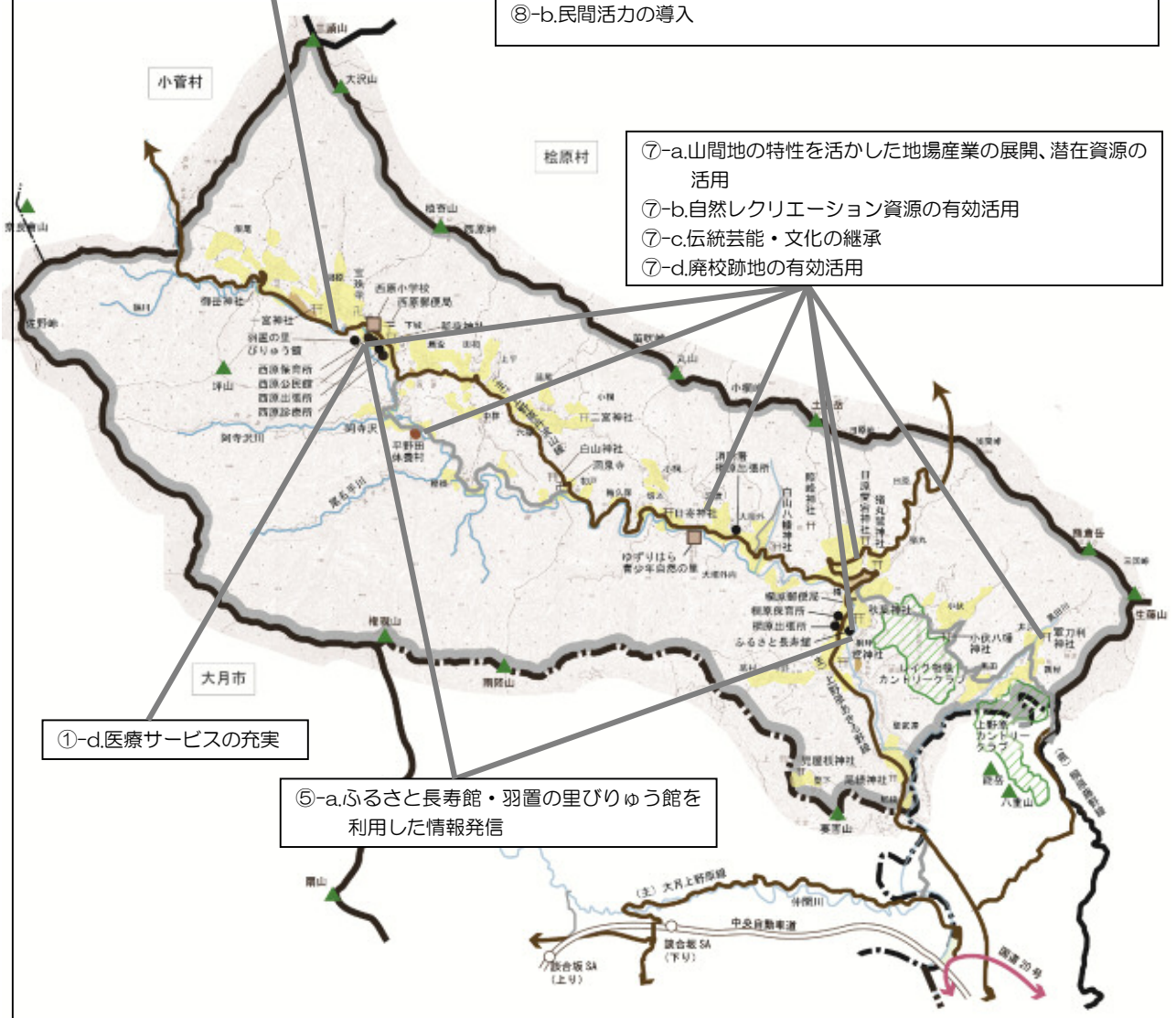
- ①-a 山間集落地の住環境、生活基盤の改善・整備
- ①-b.人口減少の歯止めと山間居住の促進
- ①-c.地域コミュニティの維持・向上
- ①-e.誰もが使いやすい公共交通の機能強化
- ③-a 景観計画の策定
- ③-b 耕作放棄地や荒廃した山林の再生・活用
- ④-a.森林・緑地資源の維持・保全・活用
- ④-b.水辺空間の維持・保全・活用
- ⑧-a.公共施設等の再配置・集約化
- ⑧-b.民間活力の導入

- ②-a.地域間を連絡する道路網の確立
- ⑥-a.安全・安心な交通環境の強化
- ⑥-b.がけ崩れ等危険箇所等の解消

- ⑦-a.山間地の特性を活かした地場産業の展開、潜在資源の活用
- ⑦-b.自然レクリエーション資源の有効活用
- ⑦-c.伝統芸能・文化の継承
- ⑦-d.廃校跡地の有効活用

- ①-d.医療サービスの充実

- ⑤-a.ふるさと長寿館・羽置の里びりゅう館を利用した情報発信



- | | | |
|-----------|--------|--------------|
| — 行政界 | — 河川等 | ■ 教育施設 |
| — 地区界 | ■ 集落地 | ● 公共施設 |
| — 鉄道・駅 | ■ ゴルフ場 | ● レクリエーション施設 |
| — 中央自動車道 | | 〒 郵便局 |
| — 国道 | | 〒 神社 |
| — 県道 | | 〒 社寺 |
| — 主要な生活道路 | | ▲ 主な山地 |



2) 将来像

■地域の将来像と目標

つながりと豊かさを育む、ずっと住み続けたいなるまち

◆目標

- 人々が集い、地域活動をつなぐ、暮らしの安心と未来への希望が持てる小さな拠点づくりを目指します。
- 自然レクリエーション資源や地域の伝統・文化を活用し多くの人との交流を育みます。
- 周辺地区との連携・交流を図るため、地域間の道路網の整備を推進します。

◆重点プロジェクト

○農地を維持・保全し、活用したまちづくり

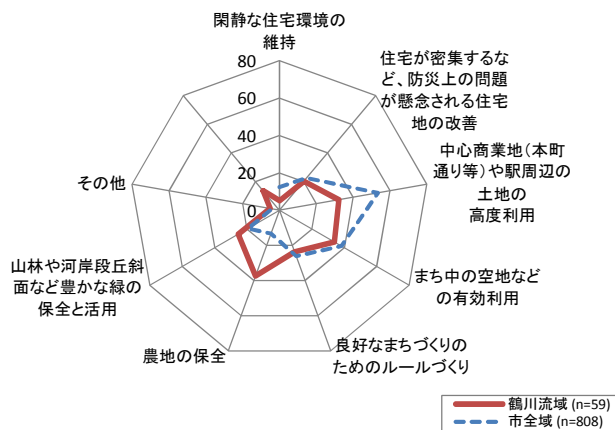
本地域は、農家数や農業就業人口が市内で最も多く、世帯の約7.7%が農業を営んでいます。しかし、農業就業人口は年々減少傾向にあり後継者問題や険しい地形等による基盤整備の困難性もあり、農林業の衰退が進んでいます。農地の遊休化、耕作放棄を防止し、農村環境の向上を図り、農地の生産力の維持保全を推進していきます。

○豊かな緑の保全と活用

本地域は、奥深い山間地域に位置しています。この緑濃い豊かな自然環境を維持・保全し、自然のレクリエーション資源を活用した地域産業の展開を図ります。特に、近年は、自然を楽しみながら誰もが気軽にできるレクリエーションとして登山やハイキングの人気の高まっており、登山道やハイキングコースの整備等により地域資源を活用した地域活性化を図ります。

◆地域住民の意向・声

Q. 土地利用（土地の使い方）について、具体的にどのような点を優先的に進めるべきとお考えになりますか。



【地域住民の声】

- 上野原の自然を守り便利なことだけを見るのではなく、今まで上野原の人々が大切にしてきた人とのつながりや伝統的なものを守っていくまちづくりを願っています。
- かけがえのない美しい自然環境のある上野原のまちを私達住民は深く理解し、大切に守っていかなければならないと思っています。少々の不便はどうということはない。それよりも自然を保護し、次世代に美しいものを残していけるようにしたいものです。
- 山間部では、自給自足(地産地消)として農産物を耕作している方が多くいます。しかし、猿やイノシシ等による作物への被害が多くなっています。新しい施設を作るより、荒れた土地の整備、使用済みの施設の再利用を考えていただきたいです。地域住民の自分たちの周りの環境に対する意識を高め、整備、保全等に取り組む姿勢を育てることが大切だと思います。

■土地利用の方針

小さな拠点づくりと農地・森林の保全・維持・活用を進めます

本地域は、奥深い山岳地の自然の懐に抱かれた穏やかな里山の暮らしを営む集落地が点在しています。医療・福祉、買い物等の日常サービス機能が集約した小さな拠点を整えるとともに、誰もが訪れ交流を重ねることのできる農山村の暮らしを主体とした土地利用の推進と居住環境の維持・向上を進めていきます。

- 鶴川の河川に沿って点在する集落地は、里山の集落環境の維持・保全を図るとともに、農用地の保全、遊休農地の再生・活用を進めていきます。
- 出張所、学校などの公益性の高い施設が立地する地区は、地域のコミュニティ活動の機能を担う地区拠点として整備を進めていきます。
- 地域活性化や農業・地域産業の振興に寄与するため、桐原地区のふるさと長寿館と西原地区の羽置の里びりゅう館を本地域の振興拠点として位置づけ、里山の暮らしに基づいた食文化や、地場産物の活用、地域の花卉市場の開拓など、農村集落とのふれあいを高める交流の里づくり、農村産業地区の形成を検討します。
- 集落地の背後に広がる森林は、保水（水源かん養）、景観保全の視点から計画的に保全を図るとともに、地域住民や来訪者など、誰もが潤いある自然を楽しめるよう登山道などの自然レクリエーション活用を進めていきます。

■まちづくりの方針

1. 活性化へ向けた地域資源を活用し、住んでみたいと思えるまちづくりを進めます

①地の利を活かした産物づくりと新たな地域産業を展開します

鶴川渓谷沿いにひらけた河岸段丘に点在する農村集落は、地形や交通条件などによる産業活動への制約がある一方、温和な気候と山間特産物の収穫に恵まれた「長寿の里」としても知られています。今後は優良農地の維持・保全とともに、農地の遊休化、耕作放棄を防止し優良農地の営農環境を確保するため、これらの地域資源を活かし、「伝統食ブランド」など地場産業によるまちの活性化や、四季折々のふるさとと産品展開、遊休農地の観光農業化、レクリエーション活用などを図るとともに、地の利を活かした新たな地域振興を進めていきます。

- ・地域産業の活性化拠点づくり（ふるさと長寿館、羽置の里びりゅう館：高齢者や女性など地域住民の知力と感性を活かす観光と連携した地域産業の展開）
- ・伝統的産物の生産・販売の促進と情報ネットワーク化の推進（既存施設を活用した伝統作物・地場産業のPR（ふるさと長寿館、羽置の里びりゅう館、農産物直売所、朝市 など）、ブランド産物のインターネット販売（穀物、加工品、わさび など）
- ・伝統的な食文化を継承しつつ、新たな農作物による差別化や付加価値を付けた「地域ブランド」づくりも含めた地域活性化
- ・農業や林業の活性化を促す6次産業化（暮らしの道具の再生、地場産木材利用の促進、地域ビジネスの展開と新たな業態の創出 など）
- ・遊休農地の有効活用（体験学習農園、オーナー制度、菜園団地などの検討）

②人口定着と里山・山間居住を促進します

本市の抱える共通の問題の1つに、山間地域における過疎化の傾向、若い世代が地域を離れ、地域そのものが活力を失いつつあることが懸念されています。今後の山間集落の豊かな暮らしを

維持するためにも、地域に通う場の創出や、森林や農地と融合する固有の住宅づくりの推進など、地域に住むことに誇りを持ち、「住む人」、「訪れる人」の誰もが住んでみたいと思える地域づくりを進めていくことが重要です。そのため、「ふるさと長寿館」や「びりゅう館」を中心とした特産物の販売経路の確立と地域興しの拠点化を図っていきます。

- ・里山居住の推進（農と親しむ山村、空き家活用の地域の暮らしを体験するクラインガルテン：滞在型市民農園、住居支援・子育て支援 など）
- ・自然と融合した生活環境、親子留学の奨励（山村留学、ふるさと体験ツアー、グリーンツーリズム など）
- ・インターネット等を活用した地域情報発信の充実（地域情報の収集（空き家情報など）、インターネットでの情報提供、情報・案内マップづくり、人材活用と育成、地域ボランティアやNPOの立ち上げ など）
- ・山間地域における医療・福祉施設の充実

2. 自然を守り、人と人のつながりや、地域の伝統文化を守り継承するまちづくりを進めます

①豊かな自然環境を維持・保全します

地域の骨格をなす鶴川や多くの沢、湧水など、潤いある水辺は地域を象徴する貴重な資源でもあります。また、緑濃い森林は、林業生産基盤のみならず、自然生態系や風土の保全、保水（水源かん養）等の機能をも併せ持っています。これら骨格的な環境・景観要素ともなる河川や水面、森林を維持・保全し、水と緑の豊かさが実感できる美しい風土の原点として、次世代へ引き継いでいくことが重要です。

- ・水辺空間の維持・保全・活用（生態系、水質等の維持・保全、治水対策の強化）
- ・森林地域の維持・保全・活用（保水（水源かん養）、荒廃した森林の再生と活用）
- ・生態系の維持・保全と農業を支援するための鳥獣害への対応（生息調査、防除対策の検討）

②自然レクリエーション資源を活用し多くの人との交流を育みます

素朴な自然に囲まれた当地域は、渓谷の水辺や三国峠・笛吹峠・坪山など山々へ至る登山道など多くの自然レクリエーション資源に恵まれています。都市近郊にある本地域は、自然の恩恵を十分に活用し、近隣から多くの人を呼び込む森林と河川が一体となったレクリエーション資源の活用を進めていきます。

- ・自然レクリエーション活動の充実（ゆずり原青少年自然の里（自然体験）、平野田休養村（キャンプ場）、散策路・遊歩道整備、環境学習の場づくり、自然観察会の開催、自然観察ガイドブックの作成、観光資源のPR、地場産業との連携強化 など）
- ・登山道・ハイキングコースの整備（案内・サイン整備、スポット的な溜まり空間・トイレ整備、マップづくり など）
- ・人材活用（自然保護・観察の先導役となる観光ボランティアの育成 など）

③地域の文化・伝統芸能を守り、新たな地域交流の場を創造します

本地域は、豊かな環境の中で営まれた獅子舞などの郷土芸能、軍刀利神社の祭りや御輿など年間を通した行事や、西原ふるさと祭りなどの地域一体となってつくり出している祭りが数多くあります。このふるさとの祭りを慈しむように継承してきたのは、地域住民の結びつき、培われてきたコミュニティの豊かさにほかなりません。この地域の結びつきを次世代に継承するとともに、

暮らしの文化や伝統芸能等の地域資源を活用し、多くの来訪者等との交流により、更に楽しいふるさとづくりを進めていきます。

- 文化・伝統芸能の保全と継承（軍刀利神社祭典、獅子舞奉納祭、西原ふるさと祭り、古在家神楽舞などの保全・継承、新たな祭り・イベントの展開）
- 地域資源の活用と交流レクリエーションの充実（ゆずりはら青少年自然の里・ふるさと長寿館・平野田休養村・ヒロ牧場・羽置の里りびゅう館等の活用）
- 地域情報を発信する活動拠点と人づくり（地域情報の収集、インターネットでの情報提供、情報・案内マップづくり、人材活用と育成、地域ボランティアやNPOの立ち上げ など）
- 地域間コミュニティネットワークの形成、助け合い、住民同士の相互扶助関係の向上 など

3. 防災安全性を確保した道路の機能強化と安全・安心な交通環境づくりを進めます

①地域を結ぶ道路網を確立します

本地域は、複雑な地形構造から災害時における道路寸断などの集落の孤立化が懸念されています。したがって、各地域との連携・交流を強化するため、地域内の幹線道路・補助幹線道路の機能強化に努めます。

- 地域間を連絡する道路網の整備促進（狭あい区間の解消、がけ崩れ等危険個所の解消（（主）上野原あきる野線、（主）上野原丹波山線、（県）桐原藤野線）
- アクセス路線の検討（地域のアクセス性向上、災害時の代替ルート確保（桐原地区～西原地区）
- 循環型公共交通体系の確立（公共交通の充実、山間集落地域への交通手段強化）

②安全・安心な交通環境づくりを進めます

道路は、生活や経済活動に不可欠な基本的な社会資本であり、暮らしに最も密着した公共施設といえます。その道路が危険であったり、通行に不便を抱えるようであれば、暮らしは不満の多いゆとりのないものになってしまいます。特に、幹線道路と重複する通学路の改善や、信号機・横断歩道の整備など、交通環境を改善し、安全で快適に利用できる誰にもやさしいみちづくりを進めていきます。

- 通学路等の交通安全性の確保（交通速度抑制、交通規制 など）
- 信号機・横断歩道の整備促進
- 道路環境の美化（道路緑化推進、ごみのポイ捨て禁止、違法看板撤去、地域住民による美化活動・維持管理の推進 など）

4. 住んで良かったと思える楽しく暮らせる住環境づくりを進めます

①地域で暮らすために必要な機能を確保し、安心な暮らしを提供します

住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、既存施設を有効に活用し、生活に必要な機能が身近なところに確保できるような暮らしやすさの向上を図ります。

- 廃校跡地の有効活用

②ゆとりある楽しく暮らせる住環境づくりを進めます

身近な生活道路の整備を進めます。

- 補助幹線道路等の改良・整備（狭あい道路や見通しの悪い交差点 など）
- 交通安全施設の機能充実（道路屈曲部の改善、隅切りの設置、カーブミラー、街路灯の設置など）

少子化、核家族化が進む中、未来を担う子どもたちを地域ぐるみで育てていくことが一層重要になってきます。そのため、住宅地のオープンスペースや空き地などのオープンスペースを有効活用し、身近な公園や小広場の整備を進めます。

水資源の開発・確保に努め簡易水道の統合など給水施設の整備を進めます。山間集落地では地域に応じた生活排水処理方式（合併浄化槽）を普及していきます。

ごみの減量化や自家処理の普及など、住民の環境意識の向上を図りながら省エネ・リサイクルのまちづくりを推進します。

- 道路交通機能の円滑化や騒音・振動防止などの環境に配慮した道路づくりの推進
- ごみの再利用、再資源化への分別の徹底に向けた情報発信、意識の向上

近年、局地的な集中豪雨による浸水や法面崩落による道路寸断など災害が各地で多発しています。安全・安心な暮らしのためにも、治山・治水対策によるハード面の対策実施や、ソフト面強化を図り防災、減災対策を進めます。

- 防災拠点の強化（指定避難場所）
- 緊急時の輸送ルート確保（幹線道路の防災性向上、代替えとなる補助幹線道路の充実）
- 地域自主防災体制のソフト面における強化（災害時の連絡体制、消防団の機能強化、救援・救助体制の確立、医療機関との連携効果、防災意識の高揚）
- 集落内の狭あい道路の改善、避難路の確保

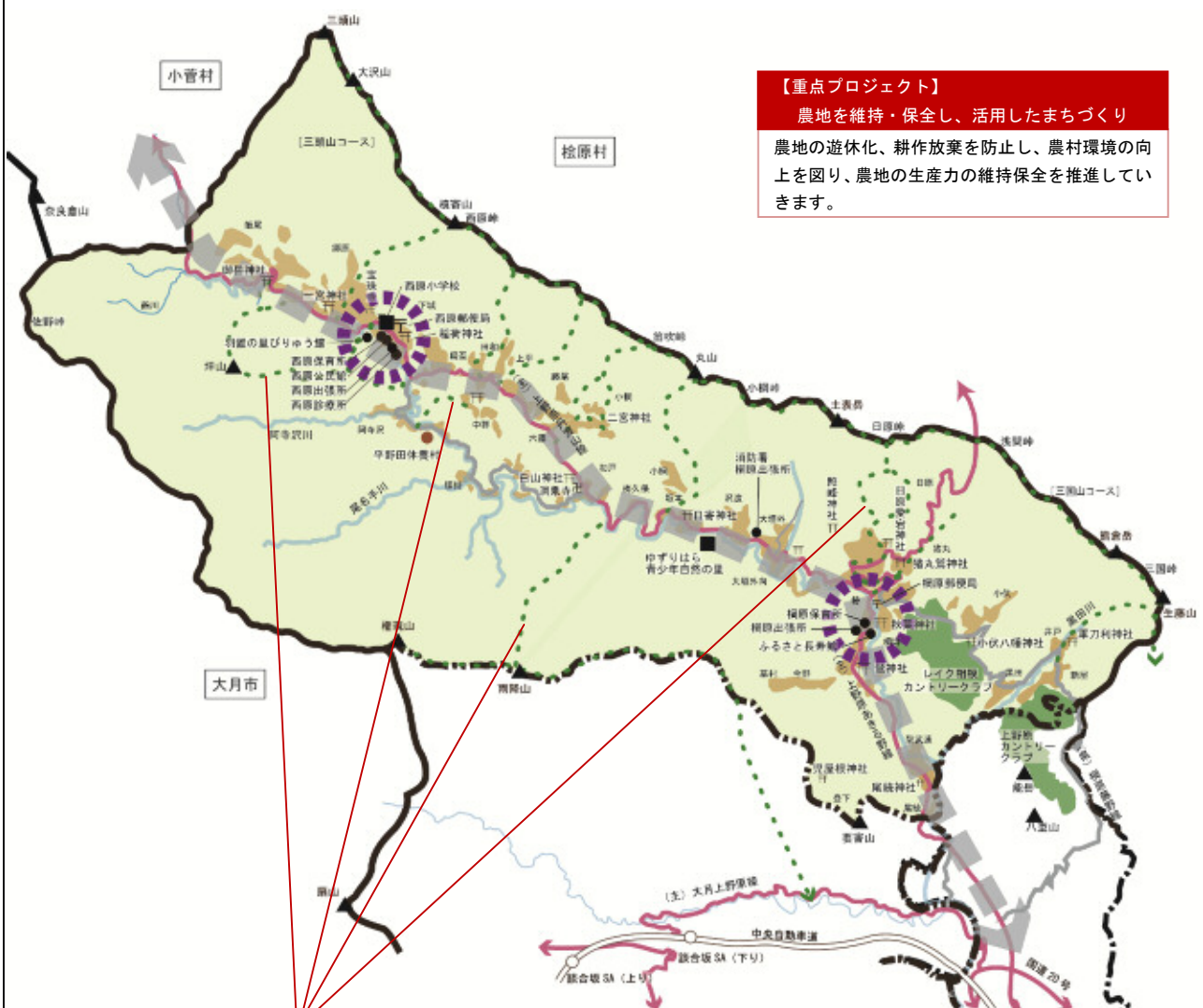
防犯灯などを設置し、防犯対策を強化し地域の安全性強化に努めます。

- 防犯灯の整備、主要箇所への警察官立寄所の設置など防犯施設の設置、防犯活動の啓発と普及

お年寄りや障害のある人をはじめ誰もがいきいきと心豊かに日常生活を送り、社会活動に参加できる地域を目指し、道路等の公共施設のバリアフリー化を推進します。

- 高齢者など誰もがいきいきと暮らせるよう、交流やふれあい活動の拠点、仕組みづくり
- 道路等の公共施設のバリアフリー化の推進

◆まちづくり方針図（鶴川流域地域）



【重点プロジェクト】
農地を維持・保全し、活用したまちづくり
 農地の遊休化、耕作放棄を防止し、農村環境の向上を図り、農地の生産力の維持保全を推進していきます。

【重点プロジェクト】
豊かな緑の保全と活用
 登山道やハイキングコースの整備等により地域資源を活用した地域活性化を図ります。



<ul style="list-style-type: none"> 行政界 地区界 	<道路・交通> <ul style="list-style-type: none"> 中央自動車道 幹線道路 補助幹線道路 地域間連絡道路 	<土地利用> <ul style="list-style-type: none"> 集落 森林 ゴルフ場 地区拠点 レクリエーション施設 	<その他> <ul style="list-style-type: none"> 水辺空間の保全と治水安全性の向上（河川） 登山道・ハイキングコース 	<ul style="list-style-type: none"> 教育施設 公共施設 郵便局 神社 社寺 山地
--	--	--	---	---

(6)秋山川流域地域

1)現状と課題

■地域の現状

○本地域は、本市の南部に位置し、地域の中心を流れる秋山川に沿って、河岸段丘の集落地と、緑濃く山深い森林地域となっています。

○本地域には、都市計画区域が指定されていません。

○本地域の人口・世帯数は、平成 22 年（国勢調査）で 1,889 人、600 世帯となっており、本市の総人口に占める割合は約 7%と低く、人口・世帯数ともに減少傾向にあります。地域における高齢化率は 30%と、高齢化も進行しています。

○主な幹線道路は、東西方向に（主）四日市場上野原線が通じ、各集落と中心市街地を結んでいます。

○山や河川、溪流、温泉など、自然資源を活かし、グリーンツーリズムという形での新しい資源の掘り起こし、食文化の伝統を活かし、農産物を観光と結び付け新たなサービス産業を目指しています。



■地域の課題

①少子・高齢化、人口減少への対応

- a.山間集落地の住環境、生活基盤の改善・整備（定住促進）
- b.誰もが使いやすい公共交通の機能強化

②生活行動圏の広がりへの対応

- a.地域間を連絡する道路網の確立（狭あい区間等の解消）

③価値観の多様化への対応

- a.景観計画の策定
- b.耕作放棄地や荒廃した山林の再生・活用

④循環型社会への対応

- a.森林・緑地の維持・保全・活用
- b.水辺空間の維持・保全・活用（秋山川水系）

⑤ICTと情報化社会、国際化への対応

- a.新湯治場秋山温泉・秋山マス釣り場を利用した情報発信

⑥安全・安心なまちづくりへの対応

- a.安全・安心な交通環境の強化
- b.がけ崩れ等危険箇所等の解消

⑦地域資源等を活かしたまちづくりへの対応

- a.自然レクリエーション資源の有効活用
- b.山間地の特性を活かした地場産業の展開、潜在資源の活用
- c.棚田景観の活用
- d.廃校跡地の有効活用

⑧都市経営コスト最適化への対応

- a.公共施設等の再配置・集約化
- b.民間活力の導入

◆地域の現状と課題図（秋山川流域地域）

- ①-a.山間集落地の住環境、生活基盤の改善・整備
- ①-b.誰もが使いやすい公共交通の機能強化
- ③-a.景観計画の策定
- ③-b.耕作放棄地や荒廃した山林の再生・活用
- ④-a.森林・緑地の維持・保全・活用
- ⑥-a.安全・安心な交通環境の強化
- ⑥-b.かけ崩れ等危険箇所等の解消
- ⑧-a.公共施設等の再配置・集約化
- ⑧-b.民間活力の導入



- | | | |
|-----------|--------------|--------|
| — 行政界 | — 河川等 | ■ 教育施設 |
| — 地区界 | ■ 集落地 | ● 公共施設 |
| — 鉄道・駅 | ■ ゴルフ場 | 〒 郵便局 |
| — 国道 | ● レクリエーション施設 | ⌘ 神社 |
| — 県道 | ○ 伝統・文化 | ⌘ 社寺 |
| — 主要な生活道路 | | ▲ 山地 |



2) 将来像

■地域の将来像と目標

魅力ある地域社会の創造と、新しい交流の展開

◆目標

- 豊かな自然環境を維持・保全・活用し、美しく自然あふれる農村を形成します。
- 生活環境整備を推進し、安全・安心な居住環境の確保に努めます。
- 地域の伝統や特性を大切にしつつ、上野原市としての一体感の醸成を図ります。

◆重点プロジェクト

○豊かな自然を活用した地域活性化の推進

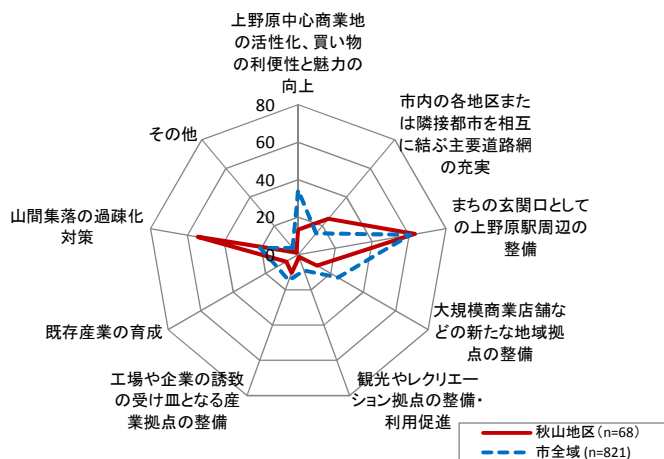
本地域には、自然を活かしたキャンプ場や、釣り場、温泉などの観光施設があります。こうした施設の充実を図り、環境施設および交流の場としての積極的な活用を行います。また、これら施設のルート整備や情報提供などにより有機的に結び付け、自然の恵みを楽しむことのできる地域として活性化を図ります。

○山村文化を楽しめる定住化対策

豊かな自然環境と一体となった質の高い居住環境づくりを進めます。本地域は、平地が少なく傾斜地に集落が密集していることもあり、規模の大きな住宅地を確保することは難しく、集落ごとに生活基盤を整え、快適に過ごせる環境づくりを進めます。また、市民一人ひとりが、地域の自然や歴史・文化などを学び、知識や経験を活かすことのできる場を設け、自然と調和した山村集落の生活を楽しめるような環境づくりに努めます。

◆地域住民の意向・声

Q. 市のさらなる発展のために特に重要な取り組みについて、具体的にどのような点を優先的に進めるべきとお考えになりますか。



【地域住民の声】

- 山地にある集落を結ぶ連絡道路を整備し、災害時等にすぐ対応できるようにしてもらいたい。
- 子育て支援のために、市営のフリースクールや低所得者世帯も利用できる学習サポートクラブ、児童館があるとよいと思います。
- 温泉等の行楽施設がポツンとあって施設として魅力が乏しい。
- デマンドタクシーがもう少しわかりやすく便利に利用できるような仕組みになると助かります。
- 大都市にできない自然豊かで隣人の顔が見える小さな支えあいを大事に心豊かに生きるためには、どうしたらよいかとか、少子化に歯止めをかけるにはどうしたらよいかと知恵を出し合っていくことが喫緊の課題であると思います。

■土地利用の方針

里山の持つ豊かさを未来に引き継ぐゆとりある環境づくりを進めます

本地域は、そのほとんどが森林によって占められ、倉岳山、二十六夜山、高柄山などの山岳に囲まれ、地域の中央を秋山川が西から東へ流れ、多くの支流とともに溪流をつくり、豊かな自然環境を育んでいます。集落は、秋山川に沿って点在していますが、四方は山岳に覆われた急斜面に位置しているため、住宅地等の新たな開発地については、自然環境の保全に十分に留意し、山村景観が損なわれることのないよう配慮した魅力ある地域づくりを進めます。

- 秋山川に沿って点在する集落地は、集落・農業ゾーンとして、里山の集落環境の維持・保全を図るとともに、農用地の保全、遊休農地の再生・活用を進めていきます。
- 出張所、学校などの公益性の高い施設が立地する地区は、地域のコミュニティ活動の機能を担う地区拠点として整備を進めていきます。
- 地域活性化や農業・地域産業の振興に寄与するため、富岡地区の棚田や温泉、釣り場やキャンプ場を秋山流域地域振興拠点として位置づけ、心と体の安らぎの空間の創出、里山の暮らしに基づいた食文化や、地場産物の活用など、農村集落とのふれあいを高める交流の里づくり、農村産産地区の形成を検討します。
- 集落地の背後に広がる森林は、保水（水源かん養）、景観保全の視点から計画的に保全を図るとともに、地域住民や来訪者など、誰もが潤いある自然を楽しめるよう登山道などの自然レクリエーション活用を進めていきます。

■まちづくりの方針

1. 地域の活力を高め安心した暮らしを次世代に引き継ぐまちづくりを進めます

①立地条件を活かし新たな地域産業を展開します

秋山川流域地域は、倉岳山、二十六夜山、高柄山などの山岳に囲まれ、農村集落を背景に各山岳地へ至る緑地資源や、キャンプ場、秋山温泉など山村資源が立地する、自然豊かな地域活力の可能性を秘めた地域です。当地域では近年は人口の減少や遊休農地が増えています。今後は優良農地の維持・保全とともに、これらの立地条件や地域資源を活かし、営農環境の確保や遊休農地の観光農業化、レクリエーション活用の推進など、新たな地域産業の振興を進めていきます。

- ・インターネット等を活用した地域情報発信の充実（地域情報の収集（空き家情報など）、インターネットでの情報提供、情報・案内マップづくり、人材活用と育成、地域ボランティアやNPOの立ち上げ など）

②人口定着と里山・農村居住を促進します

本市の抱える共通の問題の1つに、山間地域における過疎化の傾向、若い世代が地域を離れ、地域そのものが活力を失いつつあることが懸念されています。今後の山間集落の豊かな暮らしを維持するためにも、市民が集まれる地区拠点の創出や、森林や農地と融合する固有の住宅づくりの推進など、地域に住むことに誇りを生み出し、住む人、訪れる人誰もが住んでみたいと思える地域づくりを進めていくことが重要です。

- ・宅地分譲や生活環境整備などの人口定住化対策
- ・ごみ処理施設等の生活環境施設の整備
- ・里山居住の推進（農と親しむ山村、空き家活用の地域の暮らしを体験するファームステイ、住居支援・子育て支援 など）

- ・環境と調和した民間住宅開発の誘致（優良田園住宅地、農村型住宅地、林間別荘地 など）
- ・自然と融合した生活環境、親子留学の奨励（山村留学、ふるさと体験ツアー、グリーンツーリズム など）

2. 豊かな自然環境や風土の歴史を受け継ぎ、多くの人が集い楽しめるまちづくりを進めます

①豊かな自然環境を維持・保全します

地域の骨格をなす秋山川や多くの沢、湧水など、潤いある水辺は地域を象徴する貴重な資源でもあります。また、緑濃い森林は、林業の生産基盤のみならず、自然生態系や風土の保全、保水（水源かん養）等の機能も併せ持っています。これら骨格的な環境・景観要素ともなる河川や水面、森林を維持・保全し、水と緑の豊かさが実感できる美しい風土の原点として、次世代へ引き継いでいくことが重要です。

- ・水辺空間の維持・保全・活用（生態系、水質等の維持・保全、治水対策の強化）
- ・自然な清流の再生（地域資源を活用した河川浄化の推進（炭・竹炭 など））
- ・森林地域の維持・保全・活用（保全林をはじめ保水（水源かん養）、景観上重要な森林地域；森林粗放化の防止と資源維持、森林資源の有効活用）
- ・生態系の維持・保全と山間農業を維持するための環境維持、鳥獣害への対応（生息調査、防除対策の検討）

②風土の歴史を受け継ぎ、多くの人が集い楽しめるまちづくりを推進します

本地域には、鎌倉街道の裏街道が通っていたこともあり、地域には貴重な文化遺産や歴史的行事が受け継がれています。各集落に伝承されている祭りは、地域の暮らしに深く根ざし、ふるさとの原風景ともいえる地域の文化、風景を形成しています。これらを基に、個性あるまちづくりを進めていきます。

- ・自然や環境への負荷の少ないライフスタイルの確立。自然を楽しみ学べる環境や仕組みづくり
- ・浅間神社祭典、無生野の大念仏（国無形文化財）の伝承
- ・人材活用（自然保護・観察の先導役となる地域ボランティアの育成 など）

③集い楽しむ交流レクリエーション活動を進めます

本地域は、各集落の背景に広がる緑豊かな環境を有しており、キャンプ場や秋山川のマス釣り場などの良好な地域資源に恵まれています。これら地域資源を活かし、各資源が有機的に結びあい魅力を高め、多くの人々がレクリエーション活動などを通して地域の豊かな自然や文化と触れ合う、新たな交流と活動が生まれる場を創造していきます。

- ・温泉利用ニーズに対応した施設活用
- ・神野ふれあい農園、キャンプ場（アオゲラの森キャンプ場、さがさわキャンプ場、緑と太陽の丘キャンプ場）、秋山マス釣り場、秋山川の溪流釣り、秋山温泉等の観光拠点、旧浜沢小周辺、旧桜井小周辺）
- ・山村資源を活かす環境整備・事業化
- ・ビューポイント整備
- ・登山道・ハイキングコースの整備（案内・サイン整備、スポット的な溜まり空間・トイレ整備、マップづくり など）

- ・自然観察路等の整備（バードウォッチング、フィッシング、キャンプ場、眺望点などの溜まりの広場の整備（林道、登山道 など）

3. 地域を結ぶ道路の機能強化と、安全・安心な交通環境づくりを進めます

①地域を結ぶ道路網を確立します

周辺地域や各集落との連携・交流を強化するため、地域内の幹線道路・補助幹線道路の機能強化に努めます。特に、各地域の集落は、複雑な地形構造から災害時における道路寸断などの集落の孤立化が懸念されています。そこで、利便性の高い生活道路や緊急時の迅速なる行動体制が確保できるよう、幹線道路の改良により防災安全性向上に努めていきます。

- ・地域間を連絡する道路の改善・機能強化の推進（（主）四日市場上野原線の改良・整備、狭あい区間の解消、落石などの危険個所の改善）
- ・循環型公共交通体系の確立（公共交通の充実（路線確保、自由乗降区間の充実）、山間集落地域への交通手段強化）

②交通環境を改善し人にやさしいみちづくりを進めます

道路は、生活や経済活動に不可欠な基本的な社会資本であり、暮らしに最も密着した公共施設といえます。その道路が危険であったり、通行に不便を抱えるようであれば、暮らしは不満の多いゆとりのないものになってしまいます。特に、補助幹線道路と重複する通学路の改善や、信号機・横断歩道の整備など、交通環境を改善し、安全で快適に利用できる誰にもやさしいみちづくりを進めていきます。

- ・通学路等の交通安全性の確保（交通速度抑制、交通規制 など）
- ・信号機・横断歩道の整備促進
- ・道路環境の美化（幹線道路沿道の枝打ち伐採・枯れ木の撤去などの定期的な維持・管理、不法投棄・ごみのポイ捨て禁止、違法看板撤去、地域住民による美化活動・維持管理の推進 など）

4. 多様な交流と新たな活力を生み出し住み良さを実感する住環境づくりを進めます

①地域での暮らすために必要な機能を確保し、安心な暮らしを提供します

住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、既存施設を有効に活用し、生活に必要な機能が身近なところに確保できるような暮らしやすさの向上を図ります。

- ・廃校跡地の有効活用

②生活基盤の改善・整備と暮らしやすい環境づくりを進めます

身近な生活道路の整備を進めます。

- ・補助幹線道路等の改良・整備（狭あい道路や見通しの悪い交差点 など）
- ・交通安全施設の機能充実（道路屈曲部の改善、隅切りの設置、カーブミラー、街路灯の設置など）

少子化、核家族化が進む中、未来を担う子どもたちを地域ぐるみで育てていくことが一層重要になってきます。そのため、住宅地のオープンスペースや空き地などのオープンスペースを有効活用し、身近な公園や小広場の整備を進めます。

水資源の開発・確保に努め簡易水道の統合など給水施設の整備を進めます。山間集落地では地域に応じた生活排水処理方式（合併浄化槽の普及）を普及していきます。

ごみの減量化や自家処理の普及など、住民の環境意識の向上を図りながら省エネ・リサイクルのまちづくりを推進します。

- 道路交通機能の円滑化や騒音・振動防止などの環境に配慮した道路づくりの推進
- ごみの再利用、再資源化への分別の徹底に向けた情報発信、意識の向上

近年、局地的な集中豪雨による浸水や法面崩落による道路寸断など災害が各地で多発しています。安全・安心な暮らしのためにも、治山・治水対策によるハード面の対策実施や、ソフト面強化を図り防災、減災対策を進めます。

- 防災拠点の強化（指定避難場所）
- 緊急時の輸送ルート確保（幹線道路の防災性向上、代替えとなる補助幹線道路の充実）
- 地域自主防災体制のソフト面における強化（災害時の連絡体制、消防団の機能強化、救援・救助体制の確立、医療機関との連携効果、防災意識の高揚）
- 集落内の狭あい道路の改善、避難路の確保

防犯灯などを設置し、防犯対策を強化し地域の安全性強化に努めます。

- 防犯灯の整備、主要箇所への警察官立寄所の設置など防犯施設の設置、防犯活動の啓発と普及

お年寄りや障害のある人をはじめ誰もがいきいきと心豊かに日常生活を送り、社会活動に参加できる地域を目指し、道路等の公共施設のバリアフリー化を推進します。

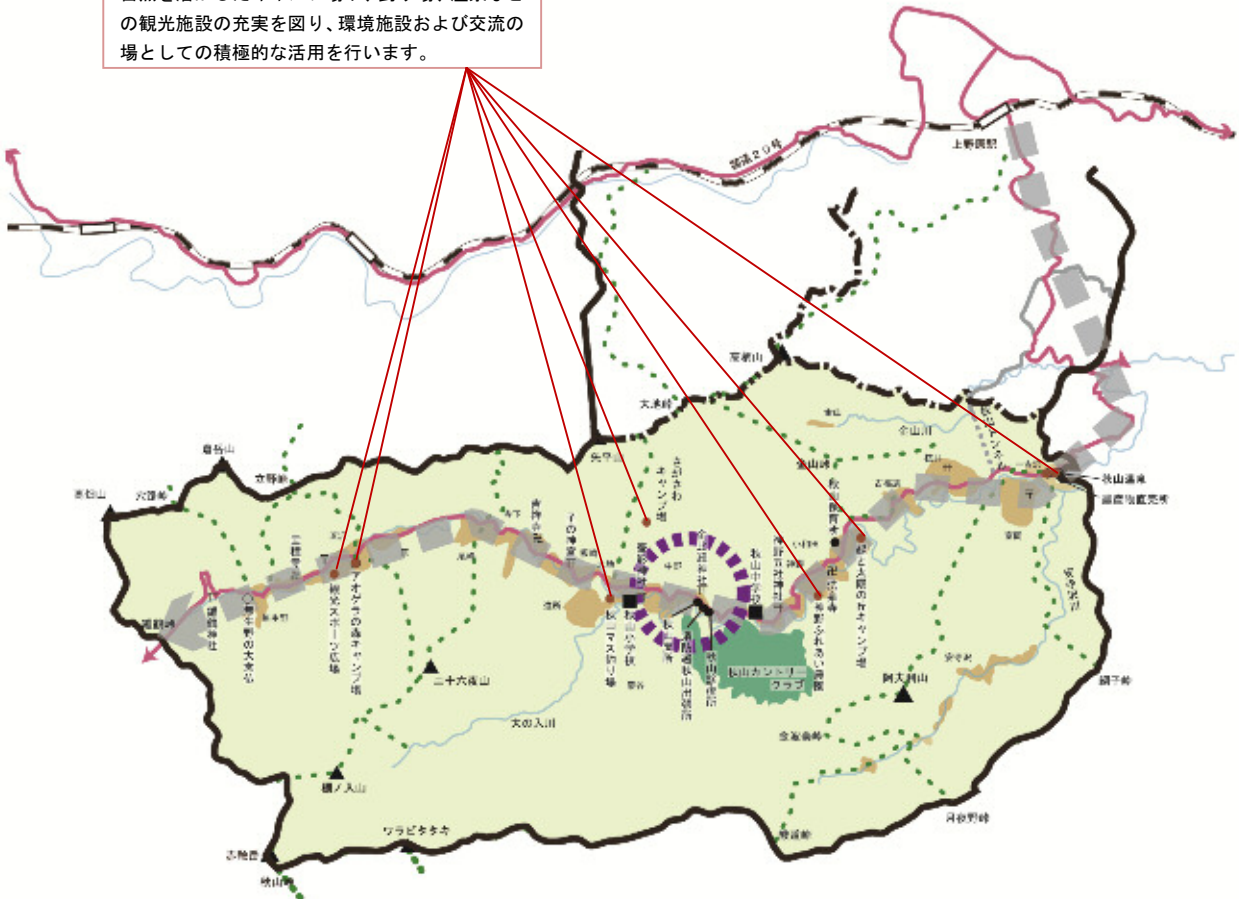
- 高齢者など誰もがいきいきと暮らせるよう、交流やふれあい活動の拠点、仕組みづくり
- 道路等の公共施設のバリアフリー化の推進

◆まちづくり方針図（秋山川流域地域）

【重点プロジェクト】

豊かな自然を活用した地域活性化の推進

自然を活かしたキャンプ場や、釣り場、温泉などの観光施設の充実を図り、環境施設および交流の場としての積極的な活用を行います。



【重点プロジェクト】

山村文化を楽しめる定住化対策

集落ごとに生活基盤を整え、快適に過ごせる環境づくりを進めます。



<道路・交通>		<土地利用>		<その他>	
—	行政界	■	集落	////	公共下水道全体区域
- - -	地区界	■	森林	●	登山道・ハイキングコース
—	幹線道路	■	ゴルフ場	○	レクリエーション施設
—	補助幹線道路	●	地区拠点	○	伝統・文化
■	地域間連絡道路	○		■	教育施設
				●	公共施設
				〒	郵便局
				〒	神社
				卍	社寺
				▲	山地

5-4 地域を横断する課題への対応

地域・地区に共通するまたは横断する課題があります。こうした課題に対して、各地域・地区の対応と合わせ、各地域・地区が一体となる連携軸を構築することが重要です。

① 人々の交流を促進する地域連携軸の形成

- ・ 地域間を結び、人々の交流を促進する道路軸
- ・ 〔軸〕 幹線道路・補助幹線道路 + 〔点〕 中心市街地、各地域

地域間を連絡する幹線道路や補助幹線道路は、地域住民の生活を支え、円滑な交通を実現する重要な道路です。しかし、本市の幹線道路や補助幹線道路の一部区間では、慢性的な渋滞が生じる箇所、狭あいな箇所、落石等の危険箇所が多くあります。また、地域の骨格をなす道路は、交通の利便性を向上させるだけでなく、緊急時の物資の輸送路、災害時の延焼遮断帯、火災時の消火活動の拠点としての防災性向上の役割を担っています。安心できる暮らしを支える市街地と地域集落との交流を促進する道路網の形成を進めます。

<対応策例>

- ・ 幹線・補助幹線道路網の強化
- ・ 狭あい区間解消
- ・ 交差点改良、歩道設置による安全性の向上
- ・ 緊急輸送路の確保
- ・ 循環型公共交通の利便性向上

② 高速道路軸の形成

- ・ (仮称) 談合坂スマートインターチェンジから市内への流入を促進し地域資源を結ぶ動線
- ・ 〔軸〕 中央自動車道 + 〔点〕 地域資源・談合坂スマートインターチェンジ・上野原インターチェンジ

談合坂サービスエリアにはスマートインターチェンジの整備が予定されています。スマートインターチェンジは、新たな市の玄関口として市内へ流入する車の増加を促し、市内の観光スポットや施設等の地域資源への立ち寄り機会の創出が期待されます。スマートインターチェンジから市内へ流入させる仕組みづくり、来訪者を受け入れる施設の整備、施設を周遊できるネットワークの整備を進めます。

<対応策例>

- ・ 中央自動車道利用者を誘引できる魅力的な景観づくり
- ・ (仮) 談合坂スマートインターチェンジ・上野原インターチェンジ間の道路整備
- ・ 観光スポットの充実
- ・ 地域資源間の沿道の景観整備、周辺観光スポットへのサイン設置
- ・ 地域資源に関する情報発信

③歴史のみち軸の形成

- ・歴史的資源を生かす旧甲州街道軸
- ・〔軸〕旧甲州街道＋〔点〕旧宿場（上野原宿、鶴川宿、野田尻宿、犬目宿）

近年、健康ブームなどの影響によりウォーキングやトレッキング等をはじめの人が増加し、イベントも多数開催されています。伝統的な旧街道の雰囲気を楽しむながらのウォーキングも人気のあるルートの一つとなっています。本市には、かつて市の大動脈であった旧甲州街道が残り、市内を東西に横断しています。現在も当時を忍ばせる建物や塚などが存在していますが、旧甲州街道は平行する中央自動車道建設に伴い寸断された箇所が多く、分岐点に道標がないことから一体的な整備が必要です。旧宿場（上野原宿、鶴川宿、野田尻宿、犬目宿）を核とし、街道沿いの街並み景観形成を進めます。

<対応策例>

- ・旧街道の保存・整備
- ・旧宿場を核にした街道沿いの街並み景観形成
- ・街道沿いのサイン等の設置
- ・ホームページ等を活用した情報発信

